

書物の地方史の試み

——一七世紀末ヘリフォードの本屋の
動産目録から——

石 井 健

目 次

| | |
|------------------------------------|----|
| 序 書物の地方史 | 1 |
| I 本屋と読者 | 3 |
| 1 地方の読者と書物との出会い | 3 |
| (1) 本屋 | 3 |
| (2) 定期市 | 7 |
| (3) 行商人 | 9 |
| (4) 公共図書館と個人文庫 | 10 |
| (5) 小括 | 11 |
| 2 読者と顧客 | 12 |
| (1) 読者と識字率 | 12 |
| (2) 本屋の顧客と書物の所有 | 14 |
| (3) 読者と読書 | 17 |
| (4) 小括 | 17 |
| II 一七世紀末ヘリフォードの本屋の動産目録 | 18 |
| 3 史料解題 | 19 |
| (1) 史料成立の由来 | 19 |
| (2) 本屋の家財道具 | 22 |
| 4 分析と考察 | 24 |
| (1) 書物の同定 | 24 |
| (2) 作品の傾向 | 27 |
| 結語 書物の地方史への試み | 34 |
| 付録 本屋ロジャー・ウィリアムズの在庫目録 (1695) | 35 |
| 注 | 56 |
| 文献一覧 | 65 |

序 書物の地方史

書物にまつわる諸々の歴史の研究は古くもあり新しくもある。経済史、文化史、社会思想史、経済学説史、書誌学、文学批評などなど既存の研究分野に分散する形でであれば、遅くとも19世紀には書物史研究は始まっていたといえるだろう。しかし他方、こういった分散した研究がいわば学際的研究領域として認知され、一つの自立した個別研究分野へと確立されるに至ったのはせいぜいここ半世紀あまりのことである。それはフランスの「アナール学派」に端を発する。

「アナール」創始者の一人ルシアン・フェーブルが後年、心血を注いだのが「心性史」研究であった。これは、民衆の考え方、感じ方、嗜好、集団意識、つまり心のあり方が歴史的にどのように変化してきたか、あるいは変わらずに続いているのかを明らかにするものだが、その一つの切り口と目されたのが書物史研究であった。ある時代にどのような書物が読まれ、それが人々の考え方、感じ方、あるいは人々の社会的行動にどのような影響を与えたのか——こうした問題関心から書物を巡る社会的諸相に新たな光を当てたのがフェーブルの書物史研究であり、それはアンリ＝ジャン・マルタンとの共著『書物の出現』として結実した。その序文の中で彼は次のように高らかに宣言する。すなわち、「本書の目的は、その出現後三世紀に亘って、つまり一五世紀中葉から一八世紀末の大革命前夜まで『書物』が及ぼした文化的作用と影響を研究することにある」と。⁽¹⁾

その後、フランスでは書物の所有状況、ジャンル別の比重変化など統計的処理を中心とした研究が盛んになり、⁽²⁾ 欧米各国でも同様の研究を行うグループが誕生し、この種の書物史研究はとくに「書物の社会史」研究と呼ばれるようになった。その所以は、これがフェーブルの問題関心を共有し、書物を媒体として社会の変容をとらえようという試みであり、ロバート・ダーントンに従えば、「ものの考え方が印刷物を通じてどのように伝播したか、印刷された言葉から人の思考や行動が過去500年間にどのような影響を受けたかを理解すること」を目的とする「印刷物によるコミュニケーションの社会的・文化的歴史」だからである。⁽³⁾ 要するに、書物を文化伝播の媒体としてとらえ、それが人類史の中で果たした歴史的役割を明らかにする研究ということになる。

そうであるとすれば、「書物の社会史」の一つのサブ研究領域として「書物の地方史」研究とでも呼びうるものが重要になってくる。それはさしあたり、ある地方から他の地方への、書物を媒体とした文化の伝播の歴史を研究するもの、とでも定義しておこう、とにかくそのような研究である。これはとりわけ近世イギリス史においては極めて重要な研究課題である。というのも、この国では16世紀半ばから17世紀末に至るまでほとんどの書物がロンドンで印刷・出版されたか、外国から輸入されたかのどちらかであったからである。地方で出版された書物は、公式にはオックスフォードとケンブリッジを除けば、ピューリ

タン革命中に例外的に存在するほかは、海賊版や地下出版でもない限り、まずあり得ない。したがって、イギリスにおける書物史はよほど注意をしないと「ロンドン書物史」をもって「イギリス書物史」と取り違える危険性なきにしもあらずなのである。近世のイギリスでは、ロンドンの抜きん出た影響力はあらゆる分野に及んでおり、それは書物史に関係するところでも同様である。だからといって、ロンドン以外の地方における思想的展開なり、知的関心なり、いわゆる「心性史」なりを研究することなしには、真にイギリスの「書物の社会史」を語ることはできないはずである。しかし、印刷業がロンドンに限定されていたという事実はこの面から地方における書物の社会的影響云々を問うことはできないということの意味する。そこで、別の角度から研究していく必要が生じてくる。

例えば、遺産目録を使った研究がある。書物の所有状況を探るために利用できるほか、目録に現れる書物名から当時どんな書物に関心があったかを探ることができる。その代表がリーダム＝グリーンの研究である。彼はチューダー朝からスチュアート朝にかけてケンブリッジの遺産目録に現れる書物のリストを作成した。⁽⁴⁾ また、オークションに出品された個人コレクションの売り立て目録を研究するという方法もある。幸いにして、この目録の目録が既に編纂されている。⁽⁵⁾ そして、本屋の活動記録の研究である。とりわけ、その帳簿や在庫目録である。本屋が地方で何を売っていたのか、何が売れると考え、品揃えをしていたか、これを探ることはその地方における知的関心の行方を知るための重要な方法である。

ところで、イギリスもウェールズに近い片田舎の地方都市ヘリフォードの文書館に一つの興味深い史料が残されている。それは本屋の動産目録である。作成されたのは1695年、17世紀も末の頃。中身は書物と家財道具のリストで、羊皮紙4枚に渡って書名と道具名、評価額が記述されている。書名はのべ173タイトル、当時の本屋の業界用語なのか、簡略に表記されている。⁽⁶⁾ 書物の地方史研究をする上で実に格好の史料である。そこで、本論考はこの史料を使い、地方における知的関心のあり方を探りたいと思う。方法は、この目録に記述されている書名を実在する書物の書誌と同定し、その情報を元に分析を加え、その結果から当時の地方の知的関心の有り様について考察を進めていくというものである。

しかしながら、分析結果から推論を巡らし、なにがしか一般的な結論を導き出そうとするためには、あらかじめ少なくとも次の2点は明らかにしておかなければならない。第一に、地方の住民はどのようにして書物を手にしたのか、その中で本屋の占める位置とはどのようなものであるのか、要するに書物の流通に関わる問題である。第二に、そもそもいかなる人が書物を読めたのか、とりわけ地方において読者とは誰のことであるのか、そして、実際に書物を購入したのはどのような人か、その社会的出自はいかなるものであったのか、ということである。以上の2点が明らかになった上で初めて、史料が社会的に位置づけられ、その意味が明確になる。そこで、まずこの点を検討していくことから本論考を始めることとする。

I 本屋と読者

1 地方の読者と書物との出会い

近世イギリスの地方住民がある書物と出会い、それを手にし、読もうとする時、本屋はこうした人と書物との出会いの場をどのくらい提供したのだろうか。この問いに答えるには、そもそも当時の地方読者がどのような形で書物と出会ったか、あるいは出会う機会があったか、が問題とされねばならない。そして、それは基本的には次の4つがあった、ということになろう。第一に、町の本屋に出向くこと。第二に、定期市に出かけること。第三に、行商人を待つこと。第四に、他人の蔵書や図書館などを利用すること。

(1) 本屋

現在でもそうだが、本屋といえば「町の」本屋である。本屋という店はある程度の人の多い場所、人口密集地に存在するもので、1集落に4、5軒しか点在しないような片田舎の土地には本屋は存在しない。17世紀イギリスでも事情は同じである。本屋は非常に限られたところにしか存在しなかった。それは基本的には司教座聖堂 cathedral や大学が存在する都市に存在した。中世以来、最も書物を必要とする人々——聖職者や学者——が存在したからである。⁽⁷⁾ したがって、こういった大都市であれば、本屋を訪れ、欲しい書物を求めることができた。在庫があればそれを購入し、なければ注文ということになろう。

中世の写本時代であれば、書物取引は注文販売が中心であった。本屋は写字生、彩色職人、製本職人を抱えていて、注文に応じてテキストを探し出し、書写し、彩色し、製本して1冊の書物を作り出し、それを顧客に販売していた。⁽⁸⁾ しかし、活字本の時代になるとこのような注文販売のスタイルは次第に廃れてしまう。活版印刷術の発明により同一テキストの大量生産が可能になり、写本時代のようにそれぞれの本屋が顧客の注文の度に様々な書物を1部ずつ印刷・出版していたのでは膨大な資本を要するだけで非常に効率の悪いものになってしまうからである。

それでは17世紀当時、ある書物が印刷されてから地方の顧客の手に渡るまでの流通経路はどのようなものであったのだろうか。それは最も基本的な場合、印刷工から書籍商、地元の本屋を経て顧客へという流れである。まず書物は印刷工の手で印刷されることでこの世に生を受ける。この工程自身興味深いものだが、本稿の目的ではないので省くことにしよう。ここで重要なことは、親方印刷工、そして彼らの印刷所が16世紀後半から17世紀末まで基本的にロンドンに集中していたことである。1557年、ロンドン書籍商組合は王権から特許を受け、法人格を獲得したが、その特許状には印刷所を所有する権利をこの組合の組合員だけに認める条項が含まれていた。組合員は規定によりロンドン市民でなければならず、さらに16・17世紀においては普通ロンドンに居住する者に限られていたから、これ

は事実上印刷所をロンドンに集中させることとなったのである。⁽⁹⁾ したがって、印刷工は自分の出版物をロンドン以外の土地で売りさばこうとすれば、どうしても他の人の手を借りなければならなくなる。そこで登場するのが書籍商である。

書物の卸売を主な業務とする書籍商 stationer は、中世にその起源を持ち、元々は写本の流通・販売を一定に引き受けていたが、活字本時代になっても書物販売の中心であった。中には自ら印刷工となったものもあったが、普通は複数の印刷工から出版物を集め、これを他の書籍商や地方の本屋に売りさばくのを専らとした。法人化したロンドン書籍商組合は初めこうした書籍卸売商を中心とし、書物の流通販売に大きな影響を与えた。例えば、書物の価格はこの書籍商の段階で決まったとあってよい。つまり、卸売価格の設定は彼らの独壇場であった。それはたいてい割引率を設定することで行われた。⁽¹⁰⁾ また、書物の生産・流通量をコントロールしたのも彼らである。それは著作権の独占を制度化することで図られた。⁽¹¹⁾ こうして、書籍商のコントロールの下、書物はロンドンから地方都市の本屋へと送られる。

ところで、書物を地方に輸送する際に一つ問題があった。それは輸送コストの問題である。近世を通じて一般的に商品の輸送費、とくに陸上輸送費は高かった。運送業者（あるいは行商人）は荷馬車か駄馬を使うか自分で担ぐかして荷物を運ぶが、一回に運べる量は限りがあったからその分どうしても荷物一つあたりの費用が高くなるのである。⁽¹²⁾ 一方、15世紀のイギリスの書物の装丁は革ひもの支持体をオーク材の板表紙につなぎ、全体を革張りする様式が普通であったため、製本した書物というものはかさばる上に重い。特に二折本などの大型の書物はそうである。そのため、どうしても輸送費が高くなってしまふ。そこで、16世紀の早い時期にはすでに書物は未製本のまま印刷済みのシートの状態でロンドンから地方へ輸送され、⁽¹³⁾ 製本自体はロンドンではなく地元で行われるようになった。製本は、製本職人が行うか本屋自らが当たった。例えば、ヘリフォードのジョン・クーパーは製本も行う書籍商であった。彼は1620年代にヘリフォード司教座聖堂の附属図書館から蔵書の製本を注文されている。⁽¹⁴⁾ 同様に、シュロップシャーの南端ラドロウの本屋ウィリアム・ロビンソンも製本業を兼ねていた。彼は1675年に亡くなったが、その遺産目録には、

| | |
|--|--------------|
| 「八折本以下の判型の書物162冊 | 4 ポンド 1 シリング |
| 不完全な二折本 7 冊 | 14 シリング |
| 不完全な、大部分は折丁の小さな本150冊 | 1 ポンド 5 シリング |
| 紙装本21冊 | 5 シリング |
| 白紙 | 5 シリング |
| 小さい角 4 本、インク入れ、初級読本 5 冊、文字板 hornbook 5 冊、 および未製本の仮綴じ本数種 | 1 ポンド」 |

と書物の一覧がつづいた後、少し離れて、

「道具 2 箱、かがりプレス sowing press 1 機、

書物断裁用プラウ plough for shaving of the books 1 機⁽¹⁵⁾ 3 ポンド10シリング」

と製本道具の記述がある。⁽¹⁶⁾ 書物が未製本のまま輸送され、地元の本屋で製本が行われていたことがはっきりと見て取れる。

こうして書物は地方都市の本屋の店頭と並ぶことになる。ちなみに、17世紀当時の都市建物はたいてい通りに直角に面し奥に長い造りとなっており、前面部1階に店舗が配置されていた。⁽¹⁷⁾ 地方の本屋の場合、ここで製本が行われ、製本済みの書物が陳列されたのだろう。中には書物以外の商品も並んでいた。代表的なものは文房具である。上記ウィリアム・ロビンソンの遺産目録には「インク入れ」や「白紙」が含まれているが、これなどよい例である。それから、意外に多いのが薬で、本屋の中にはある処方方を推薦する似非医学書を出版し、自分をこの特定の薬を扱う代理店として広告するものもあった。例えば、ヘリフォードの書籍商リチャード・ハントはプロムフィールドの壊血病に関する書物（1685年）⁽¹⁸⁾ の中で特効薬を扱う商人として名前が挙がっている。⁽¹⁹⁾ こうした書物以外の商品がだんだん多くなっていくと小間物商や雑貨商に近づいていくが、実際小間物商などが書物を販売することもしばしばあった。それはともかく、営業時間は早朝から夕方まで、ただし、都市法で決められた市のマーケット・デイが営業日であったから、毎日営業していたわけではなかった。⁽²⁰⁾

以上が、一般的な書物の流通経路であるが、実際にはもう少しいろいろなバリエーションがある。まず、印刷工が自分の印刷物を直接顧客に販売する場合である。中世以来の伝統によれば、市民は市内に店を構え、自分の生産物を販売する権利を持っていた。そこで、ロンドンであればセント・ポール教会境内に店舗や露店を出し、自家出版物を販売した。しかし、それ以外の地方では印刷工の活動が制限されていたので、このようなケースは例外である。ちなみに、地方における印刷所の活動記録は16世紀前半にいくつかの都市で散見されるが、16世紀中葉以降はケンブリッジとオックスフォードにほぼ限定される。この両都市には大学付属の印刷工房の活動が1534年以来認められており、これは大学出版局として現在まで続いている。また、1662年の出版許可法 Licensing Act では、新たにヨークでの印刷が認められた。⁽²¹⁾ その他、ピューリタン革命中に王室印刷人が国王の転戦に従いニューカッスルやブリストルで印刷した記録が残されているが、これらを除けば、1695年に出版許可法が廃止されるまで、地方の読者が地元の印刷工から直接書物を購入することは、地下出版でもない限り、ほとんどあり得ないというのが17世紀の状況であった。

もっとも、印刷工、とりわけ親方印刷工がロンドン書籍商組合員に限られ、印刷所がロ

ンドンに集中したからといって、書物の出版が彼らに独占されたわけではなく、したがって地方の本屋が出版業にまったく携わらなかったわけではなかった。出資者として、つまり出版者として関与することは少なからずあった。例えば、ヘリフォードの本屋トーマス・ハンコックスはそうした地方で出版に携わった本屋の一人である。彼は1674年、オックスフォード大学ベリオール学寮長でヘリフォード司教座聖堂参事会員だったトーマス・グッドの『ファーミアヌスとデュビタンティウス』を出版している。⁽²²⁾ クレイベル編集の『イギリス活字本総合目録』によれば、これは大型八折本で、値段は1冊1シリング6ペンスである。⁽²³⁾ このように自分では直接印刷はしないが、出版の企画から資金集め、印刷工集めなどのマネージメントを行う出版者としての本屋は活字本時代の早い段階から存在しており、その集合体とも言うべき存在が実はロンドン書籍商組合であった。⁽²⁴⁾ かの組合が17世紀初めに特許状によって得た詩篇 psalter や賛美歌 psalm、初級読本 primer、暦書 almanack、予言書 prognostication などの印刷・販売独占権はイギリス株 English Stock と呼ばれ、組合自らが経営主体となって営業が行われたのであるが、その株主たちのほとんどは印刷工ではなかった。⁽²⁵⁾ これほど大がかりではないにしても、17世紀に出版された書物の多くは出版者である本屋のイニシアティブで出版されたものである。⁽²⁶⁾ そして、出版者として地方の本屋が活動することはとりわけ17世紀後半になるとしばしばみられたから、⁽²⁷⁾ このような形で出版された書物の場合には地方の読者が直接地元の出版者から入手するということもあり得た。

卸売に主に従事するロンドンの書籍商が直接顧客に販売する場合もあった。それは特にロンドン市内で売りさばく場合である。それほど分業が進んでいない段階では、完全に卸売には特化していないのであり、卸売を営む書籍商が小売も行うといったことは往々にしてあり得た。もっとも、17世紀も後半になれば、書籍産業内での分業もだいたい進み、イギリスで出版された書物の場合、ロンドンで印刷され、ロンドン書籍商組合に属する書籍商たちに送られ、さらに地方の本屋に運ばれ、店頭に並んで顧客の目に触れるのを待つ、という流れを経るのが一般的であった。

これは外国からの輸入本についても同様であった。1534年、印刷工と製本職人に関する法律が出されたが、そこでは「この国に居住するいかなる者も、国外から持ち込まれた製本済み活字本を再び売るために買ってはならない。」「この国に居住するいかなる者も、帰化した者以外の外国生まれの者からこの国の中で、海外から持ち込まれた活字本を、卸売以外、買ってはならない。」と定められた。これは外国人書籍商の活動を制限するための法律であるが、顧客から見れば外国人書籍商から直接活字本を購入できなくなることを意味する。さらに1637年の屋室庁の第二布告では、書籍商組合員でない外国人が外国出版物を持ち込むことを禁止し、ロンドン港以外の場所で書物を陸揚げすることを禁止した。⁽²⁸⁾ 地方の本屋から見れば、直

接書物の輸入に携わらなければ、輸入本を扱うロンドンの書籍卸売商から仕入れなければならなくなったということである。したがって、17世紀の書物の流通というものは、それがイギリスで印刷されたものであろうと、外国で印刷されたものであろうと、ロンドンの書籍商を一度は経た上で、地方に送り出されるのが常であった、ということになる。

ところで、地方都市で合法的に書物を販売できたのは書物販売のギルドに加盟している本屋であったが、必ずしも本屋だけが書物を扱ったわけではなかった。織物商や小間物商といった商人たちが、様々な商品の一つとして書物を扱うことが少なくなかった。そもそもロンドンから地方への輸送の際に、織物商や小間物商の流通・販売網を利用していたのであるから、こういった問題は後を絶たなかったと思われる。ロンドン書籍商組合自身、この問題には頭を悩ませていたようで、16世紀半ば頃まではこういった活動を禁止する法令などが何度か出されたりしている。しかし、最終的には、書物を扱うものは皆書籍商組合に加盟するようにし、他のギルドの組合員の場合には所属替えを行うことで解決した。⁽²⁹⁾

一方、地方都市の場合、その人数の関係から本屋単独でギルドを組織することができなかったため、多少なりと関連のある異業種が複数より集まって一つのギルドをなすのが普通であった。ヘリフォードの場合もその例に漏れず、本屋は小間物商、外科医、床屋、鬘製造工などと共に一つの組合を作っていた。このうち、小間物商は既に触れたように他の小間物と共に書物を扱うことが多い職種であった。しかし、ヘリフォードの場合は同じギルドを構成するメンバーであったので彼らが書物を扱うことが問題とされた形跡は残されていない。ただし、別のギルドの商人が書物販売に手を伸ばした場合には大いに問題となった。1663/4年2月4日付けのヘリフォード小間物商組合の議事録には、ヘリフォード市民の織物商クリストファー・グレヴィルがヘリフォード小間物商組合のメンバーでもないのに紙装本その他書籍商組合（つまり小間物商組合）に属する商品の販売を行ったかどで20シリングの罰金刑を受けたことが記録されている。⁽³⁰⁾ また、1662年11月3日付けの項には、パーカーの行商人ウィリアム・ナイトが書物、バラッドその他書籍商組合に属する商品を販売した罪で逮捕され、20シリング相当の商品を没収されたとある。⁽³¹⁾

このように自分たちの地位を脅かす存在がなくなかったとはいえ、地方都市において本屋が顧客の書物入手に際し独占的な地位を築いていたことはまず間違いはないだろう。

(2) 定期市

都市やギルドの厳格な規制をさほど受けることなく、書物の売買が行えたのは定期市（大市、歳市 fair）であった。定期市は毎年または季節ごとに数日間、長い場合には1週間から数週間かけて開かれる市のことで、都市や市場町内の他、その郊外や村落で開催されることが多かった。例えば、アラン・イヴリットによると、17世紀を通じてサマーセット州では180以上の定期市が毎年開催されていたが、その一方で州内には市場町は39箇所しか

存在しなかったし、ケント州では16世紀末頃、毎年60以上の定期市が開かれていたのに、市場町は33箇所であった。つまり、残りは村落で開催されていたことになる。⁽³²⁾ 18世紀初頭ダニエル・デフォーがイギリスと賞したスターブリッジ大市はケンブリッジ近郊の、ニューマーケットに向かう街道とケム川の間に広がる穀物畑で開催された。⁽³³⁾ このように村落での定期市開催が多かったのは、近世の定期市の多くがその起源を中世の領主の特許状に持っていたからであり、取引の中心を農産物、特に羊や牛、馬といった家畜やチーズ・バターといった酪農品の売買においていたからである。それは定期市の開催日が5月と10月にピークを迎えることからわかる。5月は羊などの出産のピークであり、10月は収穫後の季節である。⁽³⁴⁾ もちろん、定期市には農産物だけではなく工業品も多く取り引きされたのであり、スターブリッジ大市などではケンブリッジに近いことから学生を相手とした書物取引といったものも盛んであった。⁽³⁵⁾

定期市自体は一年間通じてイギリス中どこかしらで開催されていた。そして、17世紀も後半になると、開催日を一覧にした暦書が出版され、とりわけ行商人には必需書となった。1697年出版の『行商人と旅行者の暦書』では、毎月の月の満ち欠け、天気予報等といった自然現象の占星術的な記述と並んで、各月に開催される定期市の場所と日にちの一覧が掲載されている。ヘリフォードの場合だと、5月19日、10月9日、10月21日の計3日が開催日(初日)であったことがわかる。⁽³⁶⁾ このうち、5月19日は聖エゼルバート大市と呼ばれ、12世紀にヘリフォード司教の特許状によって始まって以来続く大きな定期市である。もともとは3日間だったが、やがて9日間に延長された。⁽³⁷⁾

定期市で取り引きされた商品はまず第一に農産物であったが、もちろんそれだけではない。織物、靴やグローブといった革製品、農機具、家具、馬具、各種金属製品、宝石、香水といった嗜好品に至るまで多種多様であった。⁽³⁸⁾ 季節ごとに開かれることから信用の貸し付け、清算が行われたのも定期市の場合だった。書物はそうした様々な商品の一つにすぎなかったが、書物取引にかかる人々にとっては、最新の書物を披露し、注文を取り、買い付け、貸し借りの清算を行うためにとても重要な制度であった。中には、書物取引に特化した定期市も大陸では登場した。リヨンやフランクフルト、ライプチヒの書籍市がそれである。こういった国際的な書籍市には各国の本屋が集まりにぎわった。⁽³⁹⁾ その中にはもちろんイギリス人の本屋も含まれていた。16世紀以来ロンドンの書籍商はフランクフルト書籍市に定期的に訪問していた。また、1616年に始まったロンドン書籍商組合のラテン株 Latin Stock 事業はフランクフルト書籍市からラテン語学術書を輸入する事業であったし、1627年にこの事業が破産した後、ピューリタン革命中のパンフレット収集家として有名なロンドン書籍商ジョージ・トマスンがラテン語書物の輸入を行ったのもこの書籍市を通じてであった。⁽⁴⁰⁾

定期市には地元民や周辺の村民ばかりでなく、ロンドンその他の町の商人が集まった。⁽⁴¹⁾

特に活字本時代の初期には、ロンドンの印刷工が自分が印刷した書物を売りさばくために訪れたり、外国出身の商人が国外の書物を持ち込んだりした。⁽⁴²⁾ やがて、印刷工自身が出向くことはほとんどなくなったが、卸売を主とする書籍商は各地の定期市（オックスフォード、スターブリッジ、コヴェントリー、ブリストル、エリーなど）に定期的に人を派遣し、販路の維持に努めていた。地元の本屋にとっても定期市は重要で、自宅の店で商売するよりもうけは多かったといわれている。もちろん、都市内であれば商売の出来ない他のギルドの商人——織物商や小間物商、あるいは行商人なども自由に活動できた。それは他方で、海賊版の売買が行われているというロンドン書籍商組合の批判を受けることともなった。⁽⁴³⁾

定期市という制度自体は18世紀以後も続いたが、経済全体の中で占める重要性は17世紀末までに低下していた。これは書物取引に関しても同様である。その背景には、印刷所—出版者—書籍問屋—小売りの本屋という分業的流通体制が次第に整ってきたという事実があるだろう。⁽⁴⁴⁾ もちろん、17世紀末に至っても、地方の大きな定期市に出向くロンドンの書籍商の活動が記録されている。1686年、スターブリッジ大市では、ロンドンの書籍競売人がケンブリッジ大学の学者の蔵書売り出したという記録が残されている。⁽⁴⁵⁾ しかし、書物取引の中心はすでに本屋の日常営業へ移っていたと思われる。

(3) 行商人

本屋の存在しない都市や村落は無数にあった。こういった土地で生活していた住民が書物を手に入れようとした場合、本屋のある町に赴くか、定期市に出向くか、という選択肢の他に、行商人から手に入れるという方法が存在した。

行商人は17世紀の地方経済のみならず、ロンドン商人にとっても重要な存在だった。特に卸売業に特化しているようなロンドンの商人にとっては、地方の販路を多く行商人に依存していた。扱った商品は多岐に渡るが、特に取り扱ったものは衣類や各種織物、小間物、そして書物であった。

行商人が書物の流通に大きく関わっていた証拠は多数ある。1684年、本屋がロンドン書籍商組合に宛てた請願では多くの行商人がロンドンや地方市場で多くの書物を売りさばいているという不満が述べられている。⁽⁴⁶⁾ また、リチャード・バクスターはその自伝の中で、幼少期の思い出を次のように語る。「バラッドや数点の良い書物を持った貧しい行商人が戸口にやってきて、私の父は彼からシップス博士の『傷ついた葦 Bruised reed』⁽⁴⁷⁾ を購入した。これを私も読み、お気に入りとなり、時宜を得た贈り物となった。」⁽⁴⁸⁾ この『傷ついた葦』はピューリタンの聖職者リチャード・シップスの説教で、初版は400頁以上ある一二折本である。⁽⁴⁹⁾あるいは、木版画の中に描かれた行商人の商売品の中に布や衣服などと並び書物が登場することも証左となろう。⁽⁵⁰⁾ただし、行商人の遺産目録には書物を扱っていた形跡

があまり残されていない。行商人がよく扱ったとされる安い読本の類であるチャップブックやバラッドは1ペニーとか2ペンスといった値段で売られるものであったから、売り切れであったか査定の際に取り上げられなかった可能性が多いからである。それでもまれに記録が残っている。ランドノア州ノートンのジョン・フロイドの遺産目録には、リンネル、キャリコ、絹など様々な布やボタン、リボンといった小間物と並んで、6冊の初級読本が残されていた。⁽⁵¹⁾

実際に行商人が販売した書物はある種の分野に偏っていたようである。それは、初級読本やホーンブック、暦書、バラッド、チャップブックの類であった。特にバラッドは出版者から直接行商人に売却されるの普通であった。一般に、ロンドンのウェスト・スミスフィールドやロンドン橋周辺に集中する出版者から購入し、街道沿いに歩きながら売りさばくのである。⁽⁵²⁾

したがって、村落部において、またとりわけ値段の安い書物の場合には、地方の本屋にとって行商人は強力なライバルであったといえる。

(4) 公共図書館と個人文庫

書物は自分で買って読むばかりでなく、他人から借りて読むことも多い。17世紀において書物の貸借の諸相はいかなるものであったか。

まずそうした制度の第一は公共図書館であるが、17世紀のイギリスには公共図書館はほとんど存在していなかったといわれている。中世においては各地の修道院や大学がこうした図書館を維持しその蔵書を誇っていたが、16世紀中葉の宗教改革、とりわけ修道院解散の結果、写本中心の修道院付属の図書館や大学図書館は荒廃し、蔵書散逸の憂き目であった。⁽⁵³⁾ こうした中で、いち早く再建されたのがオックスフォード大学図書館で、再建者の名前を冠するボドリー図書館がその中心であった。1598年、長らく宮廷生活を続けていたサー・トーマス・ボドリーは引退後の余生を出身母校オックスフォード大学の公共図書館再建に捧げることにした。図書館自体は1602年に開設され、当初およそ5千点の写本と活字本から始まった蔵書は、ボドリーを始めるとする有名無名の人々からの寄贈と購入などを通じて次第に増大し、1674年頃には4万点に達した。そのためイギリスのみならず、世界中の学者を引きつけることとなった。その他、カレッジの図書館も寄贈を中心に充実が進み、資料が閲覧や貸出に供された。⁽⁵⁴⁾ 他方、ケンブリッジ大学図書館では、16世紀後半には蔵書の再構築の動きがあったものの、本格的な再建は1640年代以降となった。⁽⁵⁵⁾ しかし、この両大学図書館を除くと、ロンドンでさえ本格的な公共図書館の誕生は17世紀末を待たねばならなかった。ジョン・イヴリンはその日記の1684年2月の項で、ロンドンのセント・マーティン・イン・ザ・フィールド教区司祭トーマス・テニソン博士（後のカンタベリー大司教）が若い聖職者向けの図書館を建てる計画を知り、「ロンドンのような大都市

に今までそれにふさわしい公共図書館が一つもなかった」と述懐している。⁽⁵⁶⁾

ちなみに、図書館では、書物の盗難を防止するためしばしば書物を鎖でつなぐことが行われた。いわゆる「鎖付き図書館 chain library」と呼ばれるものがそれで、16・17世紀に多く建てられた。ポドリー図書館最上階のデューク・ハンフリー図書館やヘリフォード司教座聖堂の付属図書館が有名で、どちらも17世紀末に建てられた。⁽⁵⁷⁾

以上のように、17世紀末になるまで公共図書館の数が非常に限られていたとすれば、個人の蔵書の方はどのようになっていたか。16世紀以来貴族や聖職者は自分の屋敷に図書室を設け、蔵書を充実していったようである。その規模はまちまちだが、ときには何千冊という文庫を築くものもあった。⁽⁵⁸⁾ そして、自分の死に際し、自分の蔵書を出身の大学や友人に寄贈した。先に見たような大学図書館の蔵書の充実は、そうした個人文庫の寄贈に多くよっている。その中でもサミュエル・ピープスがケンブリッジ大学に寄贈した文庫は、当時のチャップブックやバラッドを多く含んでいる点で特異な存在だが、文庫全体の管理のため特別の建物を建てさせたという稀な例でもある。

しかしながら、貴族、聖職者以外の個人蔵書については、後述するように、きわめて限られており、また都市と農村、あるいは地域間での格差も大きいので、こうした個人蔵書の貸借を通じた人と書物との出会いの頻度をさほど多くみつめることはできないだろう。

ところで、図書館にせよ個人にせよ蔵書を収集し充実させるためには、結局のところ、本屋などを通じての書物の購入を行わなければならないとすれば、こうした蔵書の貸借は必ずしも本屋などの活動と対立しないばかりか、逆に大いに刺激したであろう。

(5) 小括

以上、書物の流通における地方の本屋の位置づけの概略を見てきた。地方住民にとって都市を拠点とする本屋が書物を手に入れるに際し大きな役割を果たしていたことが明らかになったと思う。もちろん、本屋は限られていた。本屋のない町や村は無数にあった。そういった地域では定期市や行商人が書物入手の重要な手段となっていたことも確かである。とくに行商人の活動は農村地帯における書物の流通、さらに思想の浸透に大いに役立った。一般にバラッドやチャップブックなどを多く扱ったとされる行商人であるが、必ずしもそれだけにとどまらず、時には宗教的異端とされる書物を流布させる原動力ともなった。17世紀後半に非国教徒とされた人々を多く排出した地域が行商人が行き来する主要街道上に位置していたことはただの偶然ではない。⁽⁵⁹⁾

もちろん、本屋の影響力が都市住民に限られていたと限定する必要はない。17世紀当時生まれてこの方一度も自分の生まれた村や町を出たことのない人など極めて稀であり、いろいろな機会に都市に赴くことはできたはずである。したがって、問題なのは書物の顧客とはいったいどのような人々だったのかを明らかにすることであろう。それはまた、読者

とは何者であったかを問うことにつながるのである。

2 読者と顧客

17世紀を通じて、本屋が地方において書物を供給する側の中心的な柱であったことは明らかになった。それでは書物を需要する側、消費する側についてはどのような状態にあったのか。つまり、本屋の顧客、そして読者はどのような人々だったのか。

(1) 読者と識字率

読者を単に「読み書き能力のある人」と解せば、読者の社会的位置づけを探る研究は結局社会における「識字」の広がりや変化、つまり「識字率」を明らかにする研究へと帰着する。しかしながら、近世イギリス史において識字率を読者研究の指標とするときには二つの点で問題がある。一つは技術的な問題で、どのようにして識字率を測るのかということである。ある人が文字を読み書きできるかどうかは、そうした目的のテストが行える、ないし行われた時代の場合には、テスト方法自体が正当かどうかの問題はあるが、その結果を史料として利用することができよう。しかし、そのような史料が存在しない時代の場合、何か別の代替物を利用しなければならない。近世イギリス史の場合、それはある種の史料に含まれる「サイン」となる。自分の名前が書けること、これが文字を読み書きできる証拠と見なされ、サインの有無が識字か文盲かの判断根拠となるのである。もちろん、サインができることが文字を読み書きできる証拠であるかどうかについては疑問が生じよう。しかし、ロジャー・スコフィールドによれば、自分の名前を書く能力を測ることが「ユニバーサルで、スタンダードで直接的なもじさし」という条件をすべて満足するのであり、ローレンス・ストーンによれば、19世紀に至るまでこれ以外に識字率を測る材料が存在しないため、識字率の研究ではサインの有無を識字の物差しとして使う方法が認められてきた。⁽⁶⁰⁾

では、サインを識字の指標とする方法で近世イギリス社会を見るとどのようなのだろうか。まず全体として7割近くの人々が文盲であった。もちろん、地域差はあり、ロンドンでは文盲は非常に少なく、その他の都市部では全国平均よりももう少し識字率は高く、逆に農村部では全国平均に近い。⁽⁶¹⁾ 社会層別に見た場合には、ジェントリーや聖職者層で識字率はほぼ100%近く、ヨーマンや商人・職人層で6割前後、ハズバンドマンや労働者、それに女性は2割ぐらいとはっきり区別される。また、職人・商人層の中でも、商人ほど識字率が高く、手工業者になるほど逆に低くなる傾向にある。⁽⁶²⁾ さらに、この社会層による違いは通時的にも異なってくる。16世紀末から18世紀頭にかけてジェントリーや聖職者層は高い識字率でほぼ一定のまま推移し、ヨーマンや職人・商人層では長期的に文盲が減って3割程度となる。女性の識字率も若干ながら改善されていくが、ハズバンドマンは文盲

が8割前後のままほとんど変化しない。⁽⁶³⁾

さて、こうして得られた識字率に対して、依然として次のような第二の問題が残る。それは、「文字を読む能力」と「文字を書く能力」とはそれぞれ別の能力であるということである。現代の我々にとっては両者は同じ一つの能力のように思われるが、元来この二つの能力は別物であり、少なくとも近世イギリスにおいては両者は別々のものとして一般に理解されていた。その社会では、はじめに読む能力が、次に——機会があれば——書く能力が習得された。

この点については、当時の教育制度について説明しておく必要がある。まずイギリス近世社会では、それぞれの社会層で子供に求められる教育の内容は異なり、それにしたがって求められる読み書き能力も異なった。⁽⁶⁴⁾しかし、子供が自分の属する身分・階層に必要な教育を受けられるかどうかは端的に親の経済力にかかっており、子供時代に親が亡くなったりして経済的に親の身分・階層に留まれなくなったりすると、例えば早いうちから家計を助けるために働かなければならなくなるなどして、満足な教育を受けることができなくなった。⁽⁶⁵⁾また、逆により高度な教育を受けることで親よりも社会的地位の上昇を達成する場合もあった。したがって、実はどの階層に生まれたとしても、子供がたどりうる理想的な教育コースというものは共通しており、どの段階まで教育を受けられるかは要するに親の経済力によって決まったのである。

それではその理想的な教育コースとはどのようなものだったか。まず初めに、子供は7歳までに読む能力を習った。早熟であれば5歳、6歳で習得することもあった。⁽⁶⁶⁾この読む能力を教えるのは、教会学校やデイル・スクールの教師であったり、親であったり、あるいは近所の大人であった。例えば、リチャード・バクスターの父親が読み方を教わった相手は、教区司祭だけではなく、脱穀人や日雇い労働者、仕立屋や舞台俳優といった人々であった。⁽⁶⁷⁾教師も教会から正式の許可証を得ているものから、全くの無許可のものまで様々であり、無許可の教師の中には大学出の聖職者予備軍のようなものばかりではなく、文字を読めるが書けない女性や盲人が教師になる場合も少なくなかった。次に書く能力は8歳までに習得された。ところで、この7歳から8歳にかけて、貧しい階層の子供たちは家計を助けるため仕事を始めることが多い。したがって、貧困層の中には読む能力は持っているが書く能力は持たない人々が生じやすくなる。⁽⁶⁸⁾さらに、8歳までに読み書き能力を習得したものは、親の経済力が許せば、文法学校に進むことになる。ここではラテン語の読み書きを学ぶ。そして、14歳になれば、大学に進むか、徒弟修行にはいるか、の選択をすることになる。この選択は子供が自分の属する階層にしたがって行われるのであり、スパフォードの言い方を借りれば、大学進学も聖職者になるための徒弟修行の一つ、ということになる。⁽⁶⁹⁾

以上のことから、識字率だけを見た場合には文盲が多いと思われる農民や労働者、女性

の中にも、文字を読めるが書けない人が広範に存在したのであり、識字率として数字に現れる以上に「読者」は存在したのである。とすれば、いっそう広範な社会層に書物を受容する素地があったということになる。

(2) 本屋の顧客と書物の所有

読者を識字率という切り口からとらえることで一応その規模と限界といったものが明らかになったとしよう。では、この読書なり読者層なりは同時に本屋の顧客であったとってよいのだろうか。潜在的には確かに顧客であったかもしれない。しかし、実際にどれだけの人がどれだけの書物を購入したかはまた別の問題である。

まず、書物の価格から考察してみよう。残念ながら、通時的なデータが不足しているため正確なところはわからないが、16世紀前半は全般的に書物の価格は安かったとされている。例えば、1539年に出版されたカヴァーデイルの「聖書」は未製本のもので10シリング、製本したもので12シリングであった。1570年頃やはり聖書が27シリングが売られており、この間の物価上昇を差し引くとそれほど高くなってはいない。また、種類によっても価格は違い、初級読本や教理問答集 catechism などは1ペニーないし2ペンス、戯曲なども折丁が10丁の四折本で6ペンスほどであった。もっとも、シェークスピアの『第1二折本 First folio』(1623)は20シリングで売られたようである。ただし、1千頁近くある点を考慮しないといけないが。とにかく16世紀から17世紀前半は一般的な物価上昇に伴って書物も価格を上げているが、それほど飛び抜けて高くはなかった。⁽⁷⁰⁾ 他方、17世紀後半は1666年のロンドン大火を受けて、書物が全般的に高くなったといわれている。⁽⁷¹⁾ 1666年のロンドン大火後に出版が始まった『ターム・カタログ』——現在の新刊書案内に相当するもので、ロンドンの書籍卸売商が地方の本屋に新刊書の広告をするために出版を始めたもの。タームごとに出版されたのでこの名で呼ばれるが、そのきっかけはまさに1666年のロンドン大火にある——をロバート・クレイベルが編集した『イギリス活字本総合目録』には、宗教、歴史、法律、教育などの分類ごとに発売された書物の一覧が価格付で掲載されている。それを眺めると、一番高い書物はラテン語二折本の5ポンドとなっており、一番安い書物は四折本の宗教書や教科書、雑分類に属するものなどで3ペンスであることがわかる。また、目録記載の書物うち、1シリングの書物が一番多く全体の21%を占め、次が1シリング・6ペンスの書物で14%、その次が2シリングのもので11%となっている。あるいは、2シリング以下の書物が全体の半分を占め、1シリング以下の書物が四分の一を占めている。つまり1シリングから2シリングの価格帯の書物が非常に多い。⁽⁷²⁾ 比較の対象がない上、無作為に抽出されたものでもないので、即断は避けねばなるまいが、それでもやはり多少は高めの印象がなくもない。それから、この『目録』では不明だが、『ターム・カタログ』には製本した場合と未製本の場合の価格が記述されているものが多少あり、正確な数値では

ないがおおむね2割ほど高くなっているようである。また、より本格的な製本を行えば、もっと高くなるのであり、製本職人の価格表をみてもよく分かる。例えば1695年の価格表では、子牛革で製本した場合、オーグルビーの二折判聖書が一番値が張り、金縁にすると1ポンド、装飾線を入れるだけで12シリング、無地だと8シリングであった。また、小型の一二折本や二四折本が一番安いながらも6ペンスは取られた。⁽⁷³⁾ 場合によっては本文よりも高いだろう。

以上の価格史を念頭において、次に書物の所有状況を考察しよう。どのような人が書物をどれだけ持っていたかを探ることで誰が書物の顧客であったかを推測しようというのである。これは書物が遺産目録に現れる頻度を測定することで得られる。例えば、カンタベリー、メイドストーンなどケント州の3都市では、1560年代には住民の書物所有率は10～20%前後だったのが、1600年代には30%強に増加し、1630年代には50%弱に達した。また、社会層別に見た場合、ジェントリーや専門職で70%以上に達し、商人や繊維業の職人も平均以上の所有率だが、食品業や建築業の職人やヨーマンその他の農業従事者などは平均以下であった。⁽⁷⁴⁾ 一方、ブリストルでは1620～60年に全体として35%であったのが、1660～1710年には22%と減少している。⁽⁷⁵⁾ また、1660・70年代のヘリフォード以西のワイ川流域の農村部では、全体で8%弱しか書物の所有はなく、しかもジェントリーや聖職者層でさえ45%程度にとどまっており、ヨーマンで4%弱、その他の階層ではほぼ0%であった。⁽⁷⁶⁾ 17世紀後半については全国からサンプルを集めたデータもある。ただし、聖書が含まれていないため以上の議論とは単純な比較はできないが、それによると1675年から1695年まで書物の所有率は18%であったのが、1705年に19%とほとんど変わらない。また、ロンドン孤児裁判所の遺産目録の場合には1675年で60%だったのが、1695年には84%に上昇し、1705年には90%に達している。社会層別に見た場合、1675～1725年で商人が27%、ジェントリーが39%であったのに対し、手工業者で17%、ヨーマンで18%と全体平均（19%）よりやや低く、ハズバンドマンでは4%に過ぎなかった。⁽⁷⁷⁾ 地域の違いや、都市と農村の違いなどそれぞれのデータは決して均一ではないので、全国的な動向を一般化するのは難しいが、17世紀前半にはある程度まで高まった後、ピューリタン革命中にやや下がり、17世紀後半はほとんど変わらないといった傾向は読みとれるかもしれない。これは先に見たように、17世紀後半の書物価格の上昇が影響しているためだろうか。また、農村よりも都市部で所有率が高く、ジェントリーや商人が多く書物を持ち、ヨーマン以下の農民は平均以下といった社会階層間の不均等な浸透状況も一応読みとれよう。

こうして書物の所有状況は一応概略をつかむことができたが、書物の所有者を本屋の顧客と考えることはできるだろうか。残念ながら、否である。完全に両者を同一視することはできない。それは次のような問題があるからである。すなわち、一つには購入した書物がすべて財産として残されたのかという問題であり、そしてそれとは逆に書物が財産とし

て扱われたのであれば、そのすべては購入されたのかという問題である。まず前者については明らかに否といえよう。財産として残すべき書物とそうでない書物というものは確かに存在したのであり、読み捨てられる書物というものは確実に存在した。もちろん、何が財産で何が財産でないかの区別は人により、場所により、社会により、時代により異なる。しかし、近世イギリス社会では少なくともチャップブックの類は普通は財産として残らなかったし、財産として査定されることもまずなかった。四折判の戯曲なども製本されなければ読み捨てられていた。⁽⁷⁸⁾ したがって、遺産として残らなかった、あるいは遺産として査定されなかった書物は多くあったし、そうした書物しか所有していなかった、あるいは購入しなかった人は統計的には現れてこないことになる。

同様に、後者の問題も否である。財産としての書物はまさに遺言によって人に譲渡されたのであり、したがって自分では一冊も購入しなくても書物所有者になり得たのだ。例えば、ウスター州テンペリーの教師ジョン・ヴェンソン（又はペンソン）は1671年11月30日付の遺言状の中で、自分の所蔵していた書物全て（検認遺産目録では10ポンドと査定されている）を兄弟のエドモンド・ベンソンに、バーフォードに残してきた新しい書物を従兄弟のフィリップ・コリンズに譲ると述べている。⁽⁷⁹⁾ そのエドモンド自身は1680年5月1日付の遺言状の中で、自分の書物（8ポンド相当）は妻のジェーンに譲っている。⁽⁸⁰⁾ ジョンがエドモンドに残した書物とエドモンドが妻に贈った書物が完全に同じものであったかはわからない。しかし、中にはそうして所有者を次々と替えていった書物があったに違いない。いずれにせよ、エドモンドもジェーンも顧客ではなくとも所有者になった。したがって、書物の所有者を書物の顧客と完全に同じ集団としてとらえることはできないことになる。とはいえ、両者が全く別の集団であったわけでもないわけで、全体的な傾向をつかむのであればさしあたり書物の所有者をもって書物の顧客と見なすしかあるまい。

ところで、この書物を財産と見なす考え方には別の重大な問題をはらんでいる。それは、書物を読むためではなく、別の理由で所有する可能性である。例えば、蒐集することに喜びを見いだす蒐集家の存在である。17世紀も後半になると、貴族やジェントリーたちの個人蔵書がオークションで売買されるようになるが、個人の購入者がそのコレクションの全てを読むために購入したとは考えにくい。⁽⁸¹⁾ また、貴族・ジェントリーの屋敷などでの書物の置かれている場所——書棚など——も、17世紀初めには食器室や武器庫、馬具庫であったのが、17世紀末には居間やサロンに変化していく傾向にあり、どちらかといえば客に見せびらかすためという志向が強くなる。⁽⁸²⁾ こうした点からすると、読書のためではない書物の所有のあり方も無視できないため、書物の所有状況から読者の嗜好などを探る試みはかなり限定的に取り扱わねばならなくなる。

(3) 読者と読書

人と書物との関わりを考える上で、もう一つ重要な問題がある。それは書物の読み方、読書のあり方である。読書行為の歴史については、フランス史家ロジェ・シャルチエがその重要性を主張し、精力的に研究を進めている分野であるが、その成果からは従来の書物の社会史では手つかずに残されていた問題があらわになってくる。その一つが書物の読み方についてである。⁽⁸³⁾ 前節までの議論では、「書物を読む」といった場合には暗黙の内に黙読することを前提にしていたところがある。確かに、人と書物との関係が一对一の黙読の場合には、書物を購入するなり借り出すなりが重要となる。しかし、書物の読み方というものは歴史的に見て黙読しかなかったのかといえはそんなことはない。黙って読む黙読に対して、声を出して読む「朗読」の伝統が存在していた。そして近世のヨーロッパ社会においては、黙読と並んで、社会環境によってはそれ以上に、朗読がよく行われていた。例えばフランスの都市民衆の間では、書物を含む様々な印刷物が朗読を介して集団で読まれていた。それは親方と渡り職人、徒弟が技術書を参考にする場合であったり、あるいは、プロテスタントの集会において参加者が聖書や詩編の朗読を通じて信仰を共有しあう場合であったり、同職者や地区の人々が集まって結成した信心会の場であったりした。農村の場合でも、まれにはあるが、領主が農民たちと朗読会を催すことがあった。また、知識人の間でも朗読による共同での読書がしばしばおこなわれていた。⁽⁸⁴⁾

17世紀のイギリス社会においても、朗読の伝統が強く生き続けていた証拠はある。リチャード・バクスターはその自伝の中で幼少期に父親から神についての真剣な話を聞いて罪の意識に目覚めたと告白している。また、近所でダンスに興じるものがいたり小太鼓や笛の音がうるさくて家族で聖書を読むことができなかつたと述懐している。⁽⁸⁵⁾ おそらく父親は聖書を朗読しながら、その内容を家族に解説しつつ語り聞かせていたのだろう。

朗読する、そして他の人に読み聞かせるという行為が様々な階層で一般的に行われていたとすれば、書物の所有がたとえ特定の集団に限られていたとしても、その内容はより多くの人に受容されていったと考えられる。

(4) 小括

以上、読者と書物の顧客の広がりについて概観してきた。初等教育制度が未整備でかつ義務教育制度もとられていない近世において、自分の属する社会階層によって受けることのできる教育の時間と内容が違っていたことは間違いのない事実であるが、しかしそれにも関わらず、普通イメージされてきた以上に読む能力を獲得した人は貧しい階層にまで広がっていたと考えられる。彼らはもちろん書物をそれほど購入することは出来なかつたかもしれない。また、誰にでも利用できる公共図書館は未だ存在していなかつたのであるから、そうした階層の人々の読書への欲求を完全に満たす状況にはなかつたといえるだろう。

しかし、朗読の伝統によって直接書物を読まずともその内容に接する機会は少なくなかったであろうし、それは結局購入された1冊の書物の影響というものを単純に書物を購入できる階層に限定し得ないことにもなる。

したがって、一本屋の活動はある地方の知的文化に少なからぬ影響を与え、また逆にそうした文化的背景の中で方向付けられていくことになる。

II 一七世紀末ヘリフォードの本屋の動産目録

Iで見てきたように、書物の地方史研究を行う上で地方の本屋が占める位置というものははっきりしたと思う。そこで次に、17世紀末の地方における知的関心の実態を明らかにするべく一次史料を使った考察に進むことにしよう。史料は1695年末に作成されたヘリフォードの本屋の動産目録 inventory である。ペラム（羊皮紙）4枚に本屋ロジャー・ウィリアムズの動産——初めに在庫の書物が173タイトル、続いて家財道具——が列挙され、最後にメモが付されている。

ここで以下の舞台となるヘリフォードの町を簡単に点描しておこう。ヘリフォードはウェールズに近いヘリフォード州の州都である。その起源はアングロサクソン時代にまでさかのぼるが、中世以来司教座大聖堂が置かれ、栄えてきた。1676年時点で人口約3千人。⁽⁸⁶⁾ 16世紀中葉の旅行家リーランドによれば、ヘリフォードは「古く、大きいうえ、強固な壁に守られ、中心的な城を持ち、城はワイ川により堅固である。…町には4つの教区教会があり（うち一つは司教座聖堂教会内にある）、その中のある教会は、司教座聖堂教会と並んで、とてもすばらしい。その司教座聖堂教会はとても強固な建物である。」⁽⁸⁷⁾ 「ヘリフォード城はワイ川縁、橋のやや下に位置し、強固に堀を廻らしている。その壁は高く、強固で、塔が立ち並ぶが、今や城全体は徐々に崩壊しつつある。…[城内には] 見事な聖カスバート礼拝堂があり、東部は円形建物として作られている。数名の司教座聖堂参事会員がいたが、レイシー家の一人が彼らをヘリフォード市のセント・ピーターズ [教会] に移し、カレッジはそのときヘリフォードの東の郊外に移された。…ヘリフォード市は両側をやや低地に位置している。南東をワイ川の右岸に接する丘があり、木が豊かで、ヘリフォード市からさほど遠くない。…市壁内にはセント・ピーターズ、セント・ニコラス、オールヘロウ [現在のオール・セイント]、セント・ジョンズの四つの教区教会がある。司教座聖堂教会は市の南部、城の近くが一番高いところにある。…橋より下流のワイ・ゲート郊外にセント・マーティン教会がある。…セント・アンドリュース・ゲート郊外 [には]、通りの中央にセント・アンドリュース教区教会がある」。⁽⁸⁸⁾ 1696年頃ヘリフォードを訪れた旅行家セリア・フィンネスはこの町の思い出を次のように語る。「[ヘリフォードは] 木造建築物の [多い]

ちょっと小さな町で、通りはよく舗装されており、広さも長さも整っている。…山、それは未だ残る城のことだが、そこは川や町の見晴らしがよい。司教座聖堂はとても整然としているが小さく、聖歌隊席の木造彫刻がよい。図書館でヘリフォード首席司祭から肖像画付きのポーブ・ジョーンの物語を見せられた。それは歴代のローマ教皇全てを語った活字本で、古英語で書かれていたが、私はそれをどうにか読んだ。⁽⁸⁹⁾ 18世紀初頭のダニエル・デフォーはここを「セヴァーン川以西の全ての州の都、人口豊かな大都市」であり、「古く見窄らしい造りの、とても汚れた都市で、低地でワイ川のほとりに面している。この川は、時折ウェルズの山々から流れ出す荒々しい増水のため、町を非常に困らせる」と述べている。⁽⁹⁰⁾

この小地方都市の本屋の動産目録から書物を介して地方住民の知的世界をかいま見ることができだろうか。

3 史料解題

(1) 史料成立の由来

史料を分析するにあたり、まずこの史料自身の史的位置づけを明らかにしておかねばなるまい。とっかかりは史料末尾のメモである。以下、引用しよう。

「1695年11月24日

ヘリフォード市民トーマス・ブロードとジェームズ・ワイルドは、ヘリフォード市の習字教師ジョン・ベヴァンズによって【おこされた】訴訟で、ヘリフォード市の本屋ロジャー・ウィリアムズの動産に対し、…40ポンドの負債と14シリング9ペンスの費用の【支払いを命ずる】判決に基づく…ヘリフォード市記録裁判所発行の強制執行令状の力で、…ロジャー・ウィリアムズの動産を上記一覧表のように査定し、公平かつ無関係な人物である我々査定人は我々の判断によれば動産をその価値合計35ポンド6シリング7ペンス相当と査定した。

トーマス・ブロード
ジェームズ・ワイルド】⁽⁹¹⁾

つまり、この動産目録は、市内の習字教師ジョン・ベヴァンズが、同じ市内で本屋を営むロジャー・ウィリアムズに対し40ポンドの負債の支払いを求めた裁判の結果、その支払いを強制執行するために裁判所の命で査定されたもの、ということである。

このロジャー・ウィリアムズという人物、ヘリフォード市の織物商 mercer リチャード・ウィリアムズの息子であるが、1691年1月26日に市内の書籍商リチャード・ホイティングトンの徒弟になったとヘリフォード小間物商組合の議事録にある。⁽⁹²⁾ 地方都市では非主流

の複数の異業種が一つのギルドをなしている場合が多いが、このヘリフォードもその例に漏れず、本屋・書籍商は小間物商組合に含まれている。さて、その同じ議事録には1695年8月26日にロジャー・ウィリアムズが7年の徒弟修業を終えてギルドのメンバーになったと記されている。⁽⁹³⁾ 先の議事録の記事では徒弟になったのが1691年のことであるから、実際には7年年季の徒弟修行が終わる前に組合員となったことになる。当時、徒弟修行の年季が明ければすぐに市民・組合員になれたわけではない。数年間は待たされるのが普通であり、その間は渡り職人として暮らしながら市民・組合員になるのを待たねばならないというのが一般的状況であった。そうだとすれば、これは異例のことであり、したがってそれには当然理由があるはずである。ウィリアムズの場合、おそらくその理由の一つとして考えられるのは、彼の親方であるホイティングトンが亡くなったことであろう。1695年4月10日付の遺言状が残されており、7月13日には彼の遺言執行人に検認が与えられているので、⁽⁹⁴⁾ おそらくこの年の4月ないし5月に死亡したと考えられる。ウィリアムズがこの親方の事業を引き継ぐに際し、40ポンドの借金をしたと想像することも可能である。ただし、遺言状ではその財産のすべてを自分の息子に贈るとあり、果たしてウィリアムズが本当に親方の事業を買い取り、引き継げたのか疑問が残る。ともあれ、彼は8月15日に「商店主 mercator」としてヘリフォードの市民権を獲得し、その11日後に本屋として小間物商組合員となった。⁽⁹⁵⁾

しかしそれにしても妙である。いくら親方が急死したからといって、未だ徒弟修行途中で半人前の男にその後継者として市民権を与え、組合加盟を認めることがあるのだろうか。通常、こうした場合、別の親方に移って残りの修行期間を全うするものである。それに徒弟は彼だけではない。ウィリアムズの他に2人の徒弟がホイティングトンにはいた。1人はヘリフォードの書記clerkトーマス・ブロードの息子リチャード・ブロードで1690年8月5日にホイティングトンの徒弟になっているし、もう1人はホイティングトンの息子ジョンで1693年1月16日に徒弟になっている。⁽⁹⁶⁾ このジョンは父親が亡くなったときまだ未成年であったようで、ホイティングトンの遺言状にはジョンが満21歳になったら唯一の遺言執行人としてすべての財産を与えるとされていた。また、同じ遺言状には、ホイティングトンの従兄弟で、ヘリフォードの織物商トーマス・ブロードの息子ジョン・ブロードにやはり成人したときに5ポンドを贈るとも記されている。⁽⁹⁷⁾ この織物商トーマス・ブロードはリチャード・ブロードの兄であり、ウィリアムズの動産を査定した人物である。つまり、ウィリアムズは親方の血縁・縁者を差し置いて、市民になり、組合員になったのである。なぜそれが可能だったのか。

謎はまだある。そもそも返還訴訟を起こされたのは同じ年の6月13日である。いまだ開業すらしていないこの時期になぜ訴訟を起こされたのか、そしてまた、裁判の一方の当事者しかも被告にあたる人物がどうして市民として、組合員として認められたのか。実はこ

ここにある人物の存在が重要になってくる。それはジェームズ・ワイルド、動産目録の査定人の一人である。ヘリフォード在住の書物史家ジョン・ブキャナン＝ブラウンによれば彼こそがこの訴訟事件の黒幕であるという。

このワイルドという人物は地方ジェントリーの一族の出で、1690年2月3日、7年年季で彼の兄であるロンドン・（後に）ダブリンの本屋リチャード・ワイルドの徒弟になったが、ウィリアムズ同様7年の徒弟修業を終える前の1695年6月4日、「本屋」としてヘリフォード市の市民権を購入していた。ジョン・ベヴァンズが市長裁判所にウィリアムズに貸した40ポンド（ウィリアムズ自身は否定した負債）の返還を求める裁判を起こしたのが6月13日である。これが偶然であろうはずがない、ワイルドが自分の商売の成功を妨げる邪魔なライバルを蹴り落とすため謀をめぐらしたのだ、というのがブキャナン＝ブラウンの言い分である。⁽⁹⁸⁾

それにしても、ワイルドが小間物商組合員になったのは「1699」年12月5日である。⁽⁹⁹⁾つまり、ウィリアムズの裁判でその動産を査定した時には、この人物はヘリフォード市民ではあっても小間物商組合員ではなかった。しかも、1695年12月9日には、組合員でもないのに本屋を営業した罪で組合に告訴され、後に罰金を科せられている。組合がこの裁判の準備を本格的に始めたのは9月2日、ウィリアムズが組合員となった1週間後のことである。まるで組合はワイルドと争うためにウィリアムズを組合員として受け入れたかのごとくである。⁽¹⁰⁰⁾ 謀略云々は別としても、このように決して中立的立場とはいえない人物が査定人としてなぜ選ばれたのであろうか。もう1人の査定人トーマス・ブロードもまた同様である。ウィリアムズの親方の縁者で兄弟子リチャード・ブロードの兄に当たる人物、しかもウィリアムズの父と同じ織物商であったこと、そしてリチャード自身は1700年2月5日にやっと組合員として認められた、つまり徒弟になってから10年かかったこと、そのいずれもトーマスが決して中立的立場の人間ではないことを示している。このように見ると、果たしてウィリアムズの裁判は借金の返済を巡る単なる個人間の争い事だったのだろうか。むしろ、ヘリフォード市全体を巻き込んだ何らかの対立がその背景に暗然と存在したのではないだろうか。

真相は闇の中である。しかし、裁判で破れたウィリアムズが1695-96年の組合費1シリング4ペンスを滞納し、結局は1707年に破産を宣告されたのに対し、ワイルドは後に小間物商組合長まで務めるほどの成功を収め、その子孫も19世紀初期までヘリフォードで代々本屋を営み、近隣の町にまで商売の手を広げるほど大いに繁盛した。⁽¹⁰¹⁾ 裁判の影響は明らかである。

ともかく、この裁判のおかげで我々には17世紀末の地方都市の本屋の動産目録が残されることとなった。そこに列挙された書物は、開業して日が浅い新米の本屋が商売を軌道に乗せるために集めたものであろう。つまり、それはまず確実に売れるみこみのある書物で

あったはずである。したがって、当時の地方における売れ筋が何であったか、あるいはどこに売れ筋があると考えていたかがこの史料からかいま見えてくることになる。

(2) 本屋の家財道具

動産目録に登場する書物の分析に入る前に、書物以外の動産——家財道具について少々見ておこう。

家財道具として列挙されているのは次の通りである。

| | |
|------------------|--------------------------|
| 「ベッド4台 | 1ポンド |
| トルコ風の椅子12脚 | 12シリング |
| さらに椅子6脚 | 5シリング |
| テーブル3台 | 12シリング |
| 箆筒4棹 | 1ポンド |
| 炉 furnace 1つ | 10シリング |
| 薪載せ台andiron 2組 | 5シリング |
| 店舗の保管箱chest 2箱 | 10シリング |
| ついたてscreen 1台 | 5シリング |
| ピューター製の皿6枚 | 6シリング |
| くさびjack 1個 | 5シリング |
| 鉄製桶 iron back 1個 | 5シリング |
| 鏡2枚 | 5シリング |
| 大保管箱1箱 | 6シリング |
| ピューター製プレート36枚 | 12シリング |
| ナプキン60枚 | 15シリング」 ⁽¹⁰²⁾ |

(合計 7ポンド 13シリング)

まず家財道具の合計査定額に着目したい。ウィリアムズがこのとき何歳であったかははっきりとはわからないが、通常徒弟奉公にはいるのが15、6歳、早くて13歳、遅くとも18歳であり、査定時には徒弟になってから5年弱しか経っていないのだから、おそらくは20代前半、間違いなく25歳には達していなかったはずである。であるとすれば、これから資産を蓄えていこうとする現段階では、家財道具の査定額がこの程度であったとしてもさほど不思議ではない。

しかし、その具体的な中身を見ると少々アンバランスな印象を与える。彼の年齢と比べてある種の家財道具が多すぎる。例えば、トルコ風の椅子⁽¹⁰³⁾が12脚、その他の椅子がさら

に6脚、計18脚もある。また、ベッドが4台もあるのも解せない。推定年齢からして奉公人を雇えるほどではないし、もちろん徒弟を取った形跡もない。仮に結婚していたとしても、2台で十分なはずだ。ピューター製プレートが36枚、ナプキンが60枚もあるのも同様である。訪問客用であったと考えられなくもない。あるいは、親の遺産であったのか。

他方、動産としてはありきたりなもの、登場しなければおかしいものが登場していない。まず、衣服である。どんなに貧しい人でも衣服は持っているものである。遺産目録では必ず列挙されるのに、ここでは全く現れないのは不思議である。それから、ベッド以外の寝具がない。枕やブランケット、シーツなど、ベッドがあれば当然列挙されるべきなのに、そうはなっていない。

どうやらこの査定では、あまり高価でないありふれたものは、まとまった数がある場合を除いて、査定の対象外になっているようである。あるいはこれは、裁判の結果債務を強制的に清算するために作られた動産目録と、死者の遺言を執行するために作られる遺産目録とでは、動産の列挙の方法が異なるからかもしれない。つまり、このウィリアムズの目録の場合、目的を達成するためには彼の所有する全ての動産を列挙する必要はなかった可能性があるということである。これは、書物についても注意すべき点である。つまり、この動産目録に列挙された書物は、債務返済に役に立ちそうな、ある程度高価なものか、まとまってあるものに限られている可能性がある、ということである。先に見たラドロウのロビンソンと比べて、ウィリアムズの在庫が173タイトル268点というのは少なすぎるというほどではない。しかし、ロビンソンの場合、二折本はわずかに7冊であり、残り300冊以上は八折判以下の小型本である。また、家財道具にしてもベッドが3台、椅子は10脚、プレートは12枚、ナプキンは30枚である。同様に、ヘリフォードの本屋トーマス・ハンコックスの場合、二折本が60冊であるのに対し八折及び一二折本が600冊であり、家財道具ではベッド枠が4台、椅子が16脚、プレートの記述はなく、ナプキンは36枚であった。査定総額はロビンソンが27ポンド2シリング8ペンス、ハンコックスが27ポンド13シリング2ペンスである。⁽¹⁰⁴⁾ ロビンソンの遺産目録が1675年、ハンコックスのものが1685年であるから、物価の上昇はあるとしても、ウィリアムズの査定額の方が明らかに高めである。ロビンソンもハンコックスもある程度の年齢に達した人物の資産状況を示しているとするれば、ウィリアムズの動産というのはその年齢に比べてやはり高めであるといえよう。以上の点を考慮に入れると、ウィリアムズの在庫というのは、特に小型本についてまだ他にもあった可能性は十分に考えられる。

動産目録に戻ろう。この短いリストの中でもう一つ注目したい点がある。「店舗shop」という表現である。遺産目録の中には、部屋ごとに査定を行ったため、結果として個人の家屋の規模や様式を知る手掛かりとなることがある。この目録の場合、「店舗」という記述がかるうじてそれに当たる。ウィリアムズの家がどのようなものであったにせよ、少なくとも

も店舗は持っていたことがわかる。たぶん自分の店にリストに列挙された書物の一部あるいは全部を陳列していたのだろう。だがここで次のような疑問が生まれる。すなわち、徒弟修行もろくに終わっていない若者が店舗付の家屋を買うなり借りるなりすることがどうしてできたのか、そのための資金は一体どこから出てきたのか、ということである。直ちに思いつくのは、訴訟がまさにそうであったように、人から借りたという可能性である。小間物商組合の一連の動きを見ていると、彼を支援する先輩商人たちは少なからず存在したと考えられる。両親や親戚ということもあり得よう。とにかく、その資金源がなんであるにせよ、彼は徒弟修行が完全に終わらなくても独り立ちできるだけの経済的裏付けを、少なくともその出発点においてはもっていた、つまり、ウィリアムズは決して貧しい境遇から彼の職業生活を始めたわけではないことがこの家財道具のリストからそれとなく読みとれるだろう。

このことが彼の書物の在庫リストの構成にどのような影響を与えることになるのだろうか。

4 分析と考察

史料成立の由来、および史料の位置づけがはっきりとしたところで、次に書物の分析に移ることにしよう。

(1) 書物の同定

財産目録の書物が記述されている部分を分析するにあたり、まず次の作業が必要である。それは、目録の簡略表記を実在した書物と同定することである。実はこの作業は既に一度、今から半世紀以上前に行われている。F・C・モーガンの「ヘリフォードのある本屋の1695年のカタログ」がそれである。⁽¹⁰⁵⁾ ここには原史料の転写と、同定書誌一覧、それに簡単な分析結果が載っている。一見すると、もはや改めて同定する必要がないのではないかとも思われるのであるが、しかし、現在の視点から詳細に見てみるとこの同定書誌一覧には技術的・内容的に問題がある。それは第一に、同定に使われた道具の問題である。半世紀前に行われた際には、書誌同定の道具としてE・アーバー編集の『ターム・カタログ』(1903-6)とロバート・ワット編纂の『ビブリオテカ・ブリタニカ』(1824)が使われていた。しかしその後、より詳細な、あるいは綿密な調査を基にした内容豊かなカタログ類がいろいろ整備され、とりわけ最近ではCD-ROM化されたカタログが検索道具として相当の威力を発揮するようになっている。したがって、より豊富な情報に基づいて正確な同定が可能となり、半世紀前には同定不能であると判断された書物が同定できるようになったのである。本稿で主に利用したカタログは次のとおりである。1. ポラード&レッドグレーヴ編纂『ショート・タイトル・カタログ1475-1640』(第2版)(以下『ポラード』)、2. ドナルド・ウィン

グ編集『ショート・タイトル・カタログ1641-1700』（第2版）（以下『ウィング』）、3. 『ナショナル・ユニオン・カタログ、1956年以前出版』（以下『NUC』）、4. 『イギリス・ショート・タイトル・カタログ1473-1800』（CD-ROM版）（以下『ESTC』）。その他、特定の主題ごとに編集された辞書や辞典も大いに利用した。⁽¹⁰⁶⁾

第二の問題点として、モーガンが同定に際して立脚した判断基準が不明確であるという点である。ウィリアムズの目録が作成された後に出版された書物があがっていたり、同一書名の書物が複数存在している場合に何ら根拠を示さずある一つの書物を選択したりといったことが行われている。そこで、本稿では書誌同定に当たって、いくつかの原則をあらかじめ立て、それに従った。第一に、動産目録のオリジナル表記になるべく近いものを選ぶこと。これは特に翻訳本でいくつかの訳が存在する場合などに基準となった。例えば、『Tully Offices』（166⁽¹⁰⁷⁾）はキケロの『De officiis』のイギリスでの通称であるが、ロジャー・レストレンジ訳のタイトルが『Tully's offices』であることから、この訳の版であると同定する一つの根拠とした。また、版を重ねていく間に標題が変化していく場合にも重要な判断基準となった。

第二に、史料に即して判断すること。動産目録には書誌同定に当たってヒントとなりうる情報が少なからず含まれている。特に、途中二箇所挿入されている判型に関する記述は重要である。「BOOKS ON QUARTO（四折本）」、「IN OCTAVO ENGLISH（英語八折本）」とあることから、モーガンの原史料転写に際しつけられた番号にしたがえば、43～50番の書物は四折本、51番以下は八折本又はそれより小型の判型と判断し、その判型では出版されていない書物はたとえタイトルからは正しく思えようとも除外することとした。また以上からの推測で1～42番は二折本と判断し、同様の処置を行った。このような判型ごとにまとめて記述されるスタイルは、17世紀当時としてはごく一般的なやり方であったと考えられる。例えば、先に引用したラドロウの本屋ウィリアム・ロビンソンの遺産目録でも判型別にまとめられていたし、ヘリフォードの本屋トーマス・ハンコックスの遺産目録でも、二折本と八折本・一二折本とに分けていた。⁽¹⁰⁸⁾ また、図書館で配架する場合にも判型ごとにまとめられるのが普通であったし、本屋のオークションでも判型ごとにまとめられて陳列されていた。⁽¹⁰⁹⁾

第三の原則は、当たり前のことであるが、史料の成立した1695年以前に出版された書物であることである。史料自体は1695年11月24日に作成されたものであるから、そこに記述されている書物は当然それ以前に出版されていなければならない。つまり、1696年以降の出版物は、たとえタイトルが原表記にそっくり同じであったとしても、除外した。ただし、もし1695年に出版されている場合には対象に含めることとした。

第四に、史料に特に記述がない限り、1695年の時点から見て最新の版を選択すること。書物を集めたロジャー・ウィリアムズの社会的・経済的位置付けから見て、それほど古い

出版物を集めていたとは考えにくい。むしろ比較的手に入りやすい新しい版が中心であったと思われる。したがって、似たようなタイトルの書物がある場合には、出版年が新しいものの方を優先的に選択した。こうしたことは、やはり複数の訳本が存在する外国書の場合に多く生じた。

以上のような基準に従い同定した結果が付録の一覧である。ここには1695年現在最新の版の書誌事項が載せられている。モーガンの同定との違いは次の通り。まず彼が同定できなかったタイトルのうち、同定できたものが5点。彼の同定が間違っていると思われるものが11点。彼は同定したけれども、現状ではそのように確定できないものが1点。それぞれ簡単に説明しておこう。かっこ内の数字は既に触れたようにモーガンが各タイトルに便宜的にふったものであり、付録にも同様に採用しているので、そちらと対照していただきたい。

① 新たに同定したもの

モーガンが同定できなかったもので今回新たに同定できたものは次の5点である。

(88)：モーガンはなぜか同定できなかったようだが、これは(125)及び(149)と同じ書物であろう。

(94)：これは出版当時からジェレミー・テイラーの著作と間違っ流布されたもの。

(95)：desireとdecreeの違いは、あるいは解説・転写ミスであったかもしれない。

(102)：【NUC】から。

(144)：フランス語文法書は他にもあるが、先に立てた基準に従いこの版を選択した。

② 同定結果の異なるもの

途中でタイトルが変わっているのにその指摘がないものや、複数の版がありながらそれを示唆するのみで特定の版を選択していないものなどが多いが、ここでは決定的に違うものだけ触れておく。

(50)：原史料の表記を尊重すると、モーガンが同定した「The orphan's legacy: or, A testamentary abridgement」よりも適切であると考えた。なお、モーガンは出版年について両者を混同しているようである。

(51)：パオロ・サルピの同名書が有名であるが、これは二折本か四折本であるため、「英語八折本」という表記の直後に置かれるのはおかしい。したがって八折本のものを選んだ。

(53)：原史料の表記、出版年、そして判型の3点から同定した。

(59)：【NUC】記載の第5版の注記に「Binder's title: Greenwood's country courts」とあることと出版年から同定。

(75)：【イギリス活字本総合目録】に「Taylor on the Sacrament, or a discourse of the nature, effects, and blessings...」とある。

(77)：モーガンが同定したジャン・バプティスト・ファン・ヘルモント Jean Baptiste

van Helmont の「A ternary of paradoxes」は1649年及び翌年の二つの版しか存在しないこととそのいずれもが四折本であることから、これを選択しなかった。

(99)：同様に、エリザベス・バーネット Elizabeth Burnet の「A method of devotion」は初版が1708年であることから選択しなかった。なお、モーガンはこの「初版」よりも前に刷られた未だ知られていない版の存在を推測しているが、にわかには受け入れがたい。『英国人名辞典』によればエリザベスは、最初の夫が亡くなって寡婦となった1693年からバーネット司教と再婚する1700年までの間にこの書物を書き、1度以上匿名で自費出版したという。もし1695年以前に出版していたとすると、ヘリフォードのような地方都市まで伝わるほどの人気を直ちに博したことになるが、にもかかわらずその後1708年までに一つも版を重ねることがなかったのは不思議である。しかも翌1709年には「第2版」を出しているののである。

(114)：原史料の表記から。

(120)：上記同様、原史料の表記から。

(130)：原史料の表記に近いものを選んだ。ただし、出版年が少々古い点が問題である。あるいは「Reul's holy life」と略称される書物があったのか。

(133)：(128)で「Catt」を「catechism」の略であるとモーガンが自分で指摘しておきながら、なぜかこちらにはそれを適用していない。なお、『ウイング』によれば、フォードには「The catechism of the Church of England. London, 1694」という書物が現存するとのことだが、詳細は不明のため、ここでは対象外とした。

③ 同定できなかったもの

モーガンは同定しているが、今回の調査の中では未確定で残されたのは次の1点である。

(170)：「cordial」で始まる書物は複数あり、いずれも1650年代前後の出版物である。17世紀末にこの単語だけで通じるほど普及していた書物がなんであったのか残念ながら見つけることができなかった。

(2) 作品の傾向

同定された書物リストから、どのような特徴が見て取れるだろうか。まず、書物のジャンルの内訳である。書物をジャンル別に数量的に示す研究はアンシャン・レジューム期のフランス史で盛んに行われたものだが、同じことがここでも可能であろうか。残念ながら、リストに挙がる書物の全てを現物を基にして詳細に吟味することは現状では物理的に不可能なため、厳密な分類を行うことはできない。したがってここでは、ごく少数の利用可能な現物資料⁽¹¹⁰⁾以外、二次文献の情報をできるだけ駆使し、そうした情報も得られない場合には便宜的にタイトルから推測して分類することになる。

ところで、この分類についても一言触れておかなければならない。書物を分類するに際

し、その基準をどのようにするかという問題がある。現在の我々の関心に引きつけて整理する方法もあるが、ここではむしろ当時の社会通念にしたがって分類することの方が望ましいと考える。この場合、分類自体が、一つの知的あり方を示すことになるからである。例えば、クレイベルの『イギリス活字本総合目録』を見てみよう。ここでは全体を宗教、医学、歴史、法律、戯曲、詩、建築、算術、商業、馬術、料理、軍事、農業・園芸、航海、音楽、教科書、ラテン語本、雑、地図の項目に分けて書物名を列挙している。一見すると現代とさほど変わらないように見えるが、それぞれの項目の具体的中身を見ると、やはり異っている点が少なくない。現在の通念から判断するとその項目には含まれないと思われる書物が入っていたり、又その逆であったりということがあり得るからである。例えば歴史である。現代であれば物語あるいは文学といった範疇に含まれるべき書物が、この『目録』には歴史に含まれている。例えば、『ウォリックのガイの物語』である。これは中世来の伝承に基づく英雄譚である。当時の人々であれば誰もが知っているお話で、バラッドの題材としてしばしば取り上げられたほか、18世紀末に至るまでチャップブックの中で繰り返し語られていくことになる虚構の物語である。⁽¹¹¹⁾これが『目録』には歴史書四折判10ペンスの欄に登場している。⁽¹¹²⁾あるいは、『イソップ物語』。『目録』には二折判2シリングの欄にあり、「フランシス・バエロウによる110枚の版画入り」とある。⁽¹¹³⁾これが『グレート・ブリテン教会史』などと同じ歴史書の項目に分類されている。そもそも『目録』には「文学」の項目がない。このこと自体、現代との明確な相違を物語っているが、実は18世紀までは「歴史」と「文学」の明確な区別はなく、いずれも「物語」として理解されていた。したがって、現代人が分類するに当たって、この区別を設けるかどうかの一つ問題となる。

教科書もやや困惑する面がある。教科書の中にはキケロやセネカといった著者たちのラテン語古典が多く含まれているからである。こうした古典をそのまま教科書に含めてしまっているのだろうか。しかも、『イソップ物語』のように二重に登場しているものもあり、そのまま従ったのではダブルカウントを避けることはできない。

以上の点を念頭に置き、クレイベルの『総合目録』の分類を元にして整理したものが表1である。同一タイトルで複数部数記述されているものがあるので、タイトル数ではなくて点数で算出した。分類ごとに個々の書物を簡潔に見ていこう。

① 宗教書

まず、圧倒的に多いのが宗教書である。その中でも点数が一番多いのは聖書である。旧約・新約両方を含む「ダブル bible」12点(123)とおそらく新約のみの「テストメ

表1 ジャナル別割合

| | 点数 | % |
|-----|-----|-------|
| 宗教書 | 101 | 37.7 |
| 教科書 | 52 | 19.4 |
| 古典 | 27 | 10.1 |
| 歴史書 | 25 | 9.3 |
| 文芸書 | 9 | 3.4 |
| 医学書 | 13 | 4.9 |
| 法律書 | 7 | 2.6 |
| 実用書 | 9 | 3.4 |
| その他 | 25 | 9.3 |
| 計 | 268 | 100.1 |

ント testament」26点 (124, 140), 合計38点がウィリアムズの店の在庫としてあった。これらはおそらく英語聖書であっただろう。部数が多いこと、1点あたりの評価額が低いこと、新約聖書6点は祈祷書 book of common prayer 付であることなどがその根拠である。ちなみに、英語聖書は1520年代から1640年までに63万冊、17世紀末までにさらに66万冊が印刷され、新約聖書はそれぞれ42万冊、12万5千冊印刷されたと推計されている。⁽¹¹⁴⁾ それから、ウェールズ語聖書 (142), ギリシア語新約聖書 (169) がそれぞれ1点ずつ別にある。ヘリフォード州がその西をウェールズと接し、住民の中にはウェールズ語を話す人々も少なくなかったといわれているので、ウェールズ語聖書の存在はそういった人々向けであっただろう。また、ギリシア語新約聖書は、ヘリフォードにある文法学校の生徒用の教科書か、学者・聖職者向けのものであっただろう。

祈祷書も複数あった。新約聖書と合本のもの (124) 6点の他、オックスフォードで出版された賛美歌なしの版 (33), 「未変更」版 (40), それにウェールズ語版 (41) である。このうち「未変更」版は、1694年に女王メアリー2世が死去したのに伴い、祈祷書の表現に変更すべき点が生じた——例えば、「国王と女王」となっているところを「国王」のみにするなど——にもかかわらず、その変更を行っていない版という意味である。1693年出版のオックスフォード版——つまり (33) と同じものと思われる——には折丁を差し替えた版が残っており、⁽¹¹⁵⁾ おそらくそれか同年に出版されたロンドン版の差し替えなしのものであろう。⁽¹¹⁶⁾ ただし、それ以前の版ではない。というのも、ウィリアム3世とメアリー2世が即位した1689年からメアリーの亡くなった1694年までの間に出版された二折本の祈祷書はこの1693年出版のロンドン版とオックスフォード版しか記録されていないからである。⁽¹¹⁷⁾

宗教書の中でも特によく売れた分野として説教集がある。当時、聖職者の説教はよく売れる書物の一つであった。リンカーン司教サンダーソン (4), リッチフィールド及びコヴェントリー司教ハケット (26), ソールズベリ司教座聖堂参事会員ヤング (92), カンタベリー大司教ティラツン (136) といった国教会の聖職者の説教集がここでも登場している。これに限らず、国教会の聖職者の作品は少なくない。バンゴー司教ベイリー (103), ソールズベリ司教バーネット (56, 106), ダーハム主席司祭コウマー (150), ケンブリッジ大学マグダレーン学寮長デュポート (161), オックスフォード司教パーカー (44, 71), チチェスター及びエリー司教パトリック (47, 74, 87, 97), ダウン及びコナー司教テイラー (3, 75, 121), 先のソールズベリ司教ジュエル (67) そして有名なカンタベリー大司教ロード (29, 42) といった具合である。しかしまた、著名なピューリタン聖職者バイフィールド (130), 非国教徒の代表的な聖職者リチャード・バクスター (115) やクラドック (27), オーウェン (117), ジェーンウェイ (68), ドゥーリトル (118) やショウ (141), 初め国教会派で後にローマ・カトリックに改宗したオーバダイア・ウォーカー (101) といった人々も在庫リストには現れており、宗教的党派制というものをあまり感じさせない。

日頃の生活の指針、正しいキリスト者としての生き方を教える手引き書の類もいくつかある。中でも代表的なのは『人間のまったき義務』（100）であろう。1658年に初版が世に出てから1695年までの37年間に実に36版を数える。18世紀になっても版を重ね、ベストセラーかつロングセラーな1冊である。ところで、このベストセラーとの関連でいけば、宗教書関係でははずせない1冊が実はこのウィリアムズの目録には登場していない。バニヤンの『天路歷程』がそれである。1678年に初版が出されてから1695年までのわずか17年間に実に20版を重ねた文字通りのベストセラーである。⁽¹¹⁸⁾

神学関係の書物も少なくない。中でも目を引くのはグロティウスの『神学全集』(1)である。4巻本の二折判で出版地はアムステルダムとロンドンの2種類の版がある。おそらくロンドン版であろう。ちなみにこの書物、ロンドンで製本した場合1695年で14シリングとあり、かなり高価な書物である。⁽¹¹⁹⁾ ウィリアムズの目録でも一番査定額が高く3ポンドとなっている。

その他、ウェストミンスター信仰告白(113)や公式説教集Books of Homilies(37)、聖書・賛美歌への注釈、摘要など、非常にバラエティに富んだタイトルが登場している。

② 教科書と古典作品

次に点数が多いのが教科書と古典作品である。そのうち、各種文法書、辞書、辞典、教理問答集といったものから、ホメロス、イソップ、アリストテレス、オウィディウス、キケロ、セネカといったギリシア・ラテンの古典作品まで、当時の学校で使われていたと思われる書物が多い。中でも文法書は6タイトル41冊と非常に多い。バスビーの『文法』(139)が20冊、『リリーの文法』(145)は12冊。この『リリーの文法』は16世紀中葉に初版が出て以来、ラテン語文法と英語文法の標準的な教科書として長く使われてきた。⁽¹²⁰⁾ その他、フランス語文法書(144)やギリシア語文法書(158)もある。コウルズの英羅辞典(137)や辞書(138)もあり、おそらくこれら文法書・辞書類はヘリフォード文法学校の生徒が授業で使うためのものであっただろう。一方、ハモンドやフォードの教理問答集(128, 133)は家庭でも使われたのかもしれない。

ギリシア・ラテン古典では、オウィディウスの『変身物語』(164)が6冊と多く、次に『イソップ物語』の5冊である。そのうち1冊は明らかに英語版(107)だが、残りの4冊(167)は何語であったかわからない。あるいはラテン語版であったかもしれない。これはキャクストン以来いろいろな訳者による版が存在しており、ラテン語版も版を重ねている。あるいは大陸で出版されたものの輸入本であったかもしれない。これに限らず古典作品の場合、英語版でなければ、必ずしもイギリス国内で印刷されたものとは限らないため、ウィリアムズの在庫品が本当のところ何であったかを決めるのは難しい。その他、ホメロスの『イーリアス』(153)、セネカの『悲劇集』(165)、キケロの『義務について』(166)、プルタルコス『モラリア』(60)といった著名なものが並ぶ。また、アリストテレスの『修辞

学』(64), マルクス・アウレリウスの『自省録』(55), ユウェナーリスの『風刺詩』(31)などはその英語版が登場している。

③ 歴史書

歴史書には、いろいろな地域・主題の歴史書が登場している。サー・ウォルター・ローリーの『世界史』(5), エウセビウスの『古代教会史』(13), 『スコットランド教会の真の歴史』(22), 『フランドル戦争史』(30), 『スコットランド自然史』(36), 『トリエント公会議史』(51), 『キプロス戦争史』(76), 『イギリス議会史の聖務日課書』(104), 『イングランド諸王のカレンダー』(126)といった国家や制度などの歴史の他, 『アーサー大司教ジェームズ・アッシャーの生涯』(17), 『サー・ジェームズ・メルヴィルの自叙伝』(28), 『テュレン子爵の生涯と活躍の物語』(63)といった伝記類も含まれている。また, プリドンの歴史を読むための入門書(48)といったものもある。それからこの分野で重要なのは様々な地誌の存在である。代表的なのがエドワード・チェンバレンの『アングリアエ・ノティティア, 又はイギリスの現状』(96)である。1669年に初版が出てから1695年までに18版を数える。初めは一二折判1巻ものだったが, 1671年出版の第5版から2巻組になり, 1694年出版の第18版では八折判3巻ものに拡充した。そのあまりの人気にまがい物が出版されたりもした。動産目録では「旧版」とあることから, 1691-92年出版の第17版, 一二折判2巻ものであろう。中身は当時のイギリス社会の断面図が描かれており, 一種の官職, 役職, 職業づくしである。興味深い点は標題紙の前頁にあるウィリアム3世とメアリー2世の肖像画である。メアリーの方がウィリアムより背が高く描かれている。また, 末尾には出版者の他の出版物の広告があって, チョーサーの『著作集』(8)やジョン・イヴリンの『庭師の暦書』, 伊英辞典などが登場している。⁽¹²¹⁾ また, ピーター・ヘイリンの『コスモグラフィ』(11)では, 世界各地の現代(著者が生きていた頃)までの歴史が描かれている。ヨーロッパの比重が高いが, アジアやアフリカ, アメリカについてもかなりの頁を費やしている。二折本で1千頁以上もあり, かなり大部の書物である。⁽¹²²⁾ その他, 目録には旅行記なども含まれており, 地方にありながらも世界への関心は多少なりとあったということだろうか。

④ 文芸書

文芸書は, 小説が流行する以前ではあまり大きなウェイトを占めていない。しかも登場するタイトルには当時のいわゆるベストセラーとは必ずしもいえないものが多い。『ベンティヴォリオとウラニア』(34), 『タルシスとゼリー』(39)などあまり版を重ねていない。チョーサーやエラスムスといった著名人の作品も, 17世紀も末ではかつてほどの人気をもっていなかったようである。その中であって, サー・フィリップ・シドニーの『ペンブルック伯爵夫人のアルカディア』(19)は, 1590年に初版が出されてから1674年までに18版を重ね, ロングセラーの一つと呼びうるものである。⁽¹²³⁾

⑤ 医学書

サーモン (43, 57, 58, 73, 93) やカルペパー (132) のように、後で触れるように、占星術とも関わりの深い人物の医学書と、ディーマーブルック (16), ミンジヒト (83), ヴェーデル (88, 125, 149) といった外国人の筆による医学書の翻訳本とが拮抗した形で含まれている。

⑥ 法律書

ドルトンの『州長官の任務と権威』(6), キープルの『治安判事の手助け』(7), カウエルの『解説者』(23), ゴドルフィンの『教会法の要約』(50), グリーンウッドの『州裁判の実例』(59), コウルズの『エンブレム』(98) といずれもジェントリーが地方行政に携わる上で必要な知識や技術を説明した実用書である。

⑦ 馬術, 料理, 農業・園芸その他の実用書

マーカムの『マスターピース』(46a) は馬の獣医や蹄鉄工に必要な知識を説明したもの, 『女王の開かれたクローゼット』(110) は料理を扱ったもの, 『イギリスの庭師』(45) は入植者や庭師のための入門書, 『農業体系, あるいは農業の奥義』(14) は農業改良を目指す人々向けの解説書⁽¹²⁴⁾, 『新米書記用ガイド』(53) は様々な契約書類の書式などを説明したもの⁽¹²⁵⁾, その他, 建築, 算術といったようにジェントリー, ヨーマン, 商工業者といった人々向けの多種多様な実用書が登場している。

⑧ その他

この中では、一つだけギャドベリーの『暦集』(49) に注目したい。17世紀を通じて非常によく売れた『暦書』を数年間分集めたものである。この時代、占星術は未だに社会生活の中で大きな位置を占めていた。先ほどの『農業体系, あるいは農業の奥義』(14) には、日の出・日の入りの時間, 主な星座と黄道, 各聖人の日が記載された農事暦が含まれており, 予言の仕方, 自然現象の前兆から判断する方法を説明する章が増補されている。また, 『アメリカ植民地の現状』(85, 148) では植民地ごとの日の出・日の入りの時刻, 月齢, 植民地間の時差といった占星術的(あるいはむしろ天文学的)知識の一覧が付録としてついている。⁽¹²⁶⁾ 書物だけでなく, 著者の方でも占星術と関わりの深い人物が少ない。ウィリアムズの在庫目録に登場する書物の著者のうち, 暦書を出版したことのある人はギャドベリーの他に, ウォートン, カルペパー, サーマン, アリストウリー, レイボーンらがいる。⁽¹²⁷⁾

以上全体を概観したところでその特徴をまとめておこう。第一に、宗教書が圧倒的に多い。名誉革命直後のイギリス地方社会では、なおも宗教への関心が維持されていた証であろう。ただし、その内訳からすると、日常生活にかかわる書物が多い点は重要である。また、体制派の書物ばかりでなく、反体制派の書物もそれなりの数が扱われていることから、

当時のヘリフォード及び周辺農村における宗教的分布を反映しているとも考えられる。

これと関連して、教科書類が多い点も大事である。これは一つにはヘリフォード文法学校を客筋としていたからだと考えられるが、それはまた子供の教育に対する親の熱心さというものも同時に意味してくる。教科書を購入するのは生徒である子供自身ではなく、文法学校の教師であるが、それは結局授業料という形で親が負担することになるからである。⁽¹²⁸⁾ こうした教育への関心の高さは、聖書を読むことが信仰上重要なプロテスタント、ピューリタンにとってある意味当然であったかもしれない。⁽¹²⁹⁾

第三に、こうした宗教的動機に基づいた書物への関心とは別に、むしろより世俗的な理由から書物を必要としていたと考えられるのが、様々な実用書の存在である。医学書にせよ法律書にせよ、あるいは農業書にせよ料理書にせよ、目録のラインナップから読みとれることは、当時のヘリフォード市民や周辺村民たちがこうした分野に対して何か学問的な関心を有していたというよりも、明らかに日常生活に必要な実地的な知識を欲していた、そういう人たちが非常に多かったということであろう。ただし、この知識は占星術に代表されるような伝統的な知識体系に基づいたものであって、未だ近代科学の合理的精神はこうした地方住民の思想のよりどころには至っていなかった。

実用書への関心の一方で、読者に娯楽を与える文芸書がそれほど多くはないということは、未だ小説の流行を見ないこの時点ではある意味当然ではあるが、だからといって娯楽のための読書がそれほど重視されていなかったとはいえないだろう。あるいはこの分野については、たぶんウィリアムズの在庫目録から落ちてしまったであろう安価で粗末な小型本、すなわちチャップブックやバラッドの手に委ねられていたのかもしれない。あるいは、当時の慣習に従い、歴史書を含めて考えるならば、娯楽のための読書の存在を認めることもできるのではないだろうか。ただし、狭義の意味での歴史書は場合によっては教科書や実用書としての性格を併せ持つことから微妙ではある。⁽¹³⁰⁾

最後にもう一つ。この在庫目録を我々現代人の目で眺めた場合、現代人にとっては非常に有名な、あるいは重要と目されるような17世紀の書物がほとんど登場しない点は指摘しておいてよいだろう。まず第一にシェークスピアの戯曲が一つもない。シェークスピアの作品が17世紀を通じて何度も重版されたことははっきりしている。⁽¹³¹⁾ シェークスピアだけではない。ドライデンやダンといった17世紀の著名な詩人・劇作家の作品が一つも現れない。もちろん、戯曲は書物としては安いものである。だから、査定の対象に入らなかった可能性はある。しかし、複数の在庫があれば査定された可能性も大きいのであるから、少なくともウィリアムズは戯曲をあまり扱っていなかったのかもしれない。あるいは品切れであった可能性もあるだろう。それにしても誰一人名前が挙がってこないというのはどうしたことだろうか。それとも、地方では戯曲を読む習慣が根付いていなかったのだろうか。それならば、例えばミルトンの『失樂園』（初版1667-9年、第6版1695年）やホップスの

『リヴァイアサン』（初版1651年）、ニュートンの『プリンキピア』（1687年）やロックの『政府二論』（初版1690年、第2版1694年）等々といった書物はどうかといえば、やはり全く登場しない。現代人にとっては重要な書物も同時代人にとってはさほど関心を引き起こさなかったか、あるいは未だ評価が固まっていなかったということの証だろうか。正確なことは不明である。しかし、少なくとも次のようにいうことはできるだろう。すなわち、17世紀のイギリスの地方住民は現代人とは異なる知的世界の中で生活していたのだと。

結語 書物の地方史への試み

こうして再び、出発点で立てた問いに立ち戻ろう。それは地方における知的関心の動向を本屋の動産目録から探るといったものであった。そしてこれまでの考察結果から見えてきたものは次の通りである。ピューリタン革命、名誉革命の二つの大きな政治的・宗教的・社会的変革期を乗り越えた直後の地方社会では、なおも宗教に対する関心が高かった。一方、教科書類の点数の多さは地方での教育への関心の高さを示す。とりわけ、文法学校の生徒をターゲットにしたと思われる品揃えからは、文法学校へ子供を就学させることに意欲を燃やす親たちの存在、その広がりが見えてくる。また、その親たちも日常生活に有用な知識を得るために様々な実用書を欲していたのであり、あるいは宗教への関心もよりよい生活を送るために必要な指針といったものを求める心の有り様から発せられたものであったかもしれない。宗教書中の少なくない道徳書などはこうした解釈を補強してくれるであろう。しかしながら他方で、彼らが中世的な精神宇宙から解き放たれた人々ではなかったことも確かである。占星術や民間医療に代表されるような従来の知的体系の中で彼らは思考していたのであり、現代の科学的思考の世界とは異なる国の住人であった。したがって、現代人ならば評価するであろう人物、書物、思想というものは彼らの関心の外にあったということになるだろう。

それでは、こうした知的関心というものは全くある特定の地域に限られたものなのか。それとも広く全国的に見られるものなのか。これは様々な地方の同様の研究の成果とつきあわせることである程度見えてくるものではないだろうか。しかし、それをここで行うのは手に余るものであるし、紙数もつきたので、別の機会に委ねることにしたい。

付録 本屋ロジャー・ウィリアムズの在庫目録 (1695)

各項目は、モーガンが便宜的にふった整理番号から始まり、原表記と本来の書物の書誌事項へと続く。書誌事項については、著者名(生没年を含む)、書名、版、出版地、出版年、巻数、判型、注の順に記載してある。なお、注はとくに触れない限り、『ESTC』からの引用である。

- 1: Grotij Opera Four Vollums**
Grotius, Hugo, 1583-1645
Hugonis Grotii Opera omnia theologica, in tres tomos divisa, ante quidem per partes...
London, 1679. 3 v. in 4. fol.
- 2: Hamonds Annotacons on the psalms**
Hammond, Henry, 1605-1660
A paraphrase and annotations upon the books of the Psalms, ...
2nd edition
London, 1683. fol.
- 3: Doctor Tayler cases of Conscience**
Taylor, Jeremy, 1613-1667
Ductor dubitantium, or The rule of conscience in all her general measures; serving as a great instrument for the determination of cases of conscience. In four books.
3rd edition
London, 1676. fol.
- 4: Doctor Sandersons Sermons**
Sanderson, Robert, 1587-1663
XXXVI. Sermons. viz. XVI. Ad aulam. VI. Clerum. VI. Magistratum. VIII. Populum.
With a large preface.
8th edition; Whereunto is now added the Life of the reverend and learned author, written by Isaac Walton.
London, 1689. fol.
- 5: Rawleys History of the World**
Raleigh, Walter, Sir, 1552?-1618
The history of the world, in five books. ...
Whereunto is added in this edition, The life and tryal of the author
London, 1687. fol.
- 6: Doltons Office of Sheriffs**
Dalton, Michael, d. 1648?
Officium vicecomitum. The office and authoritie of sherifs. ...
London, 1682. fol.
- 7: Keble Justice of Peace**
Keble, Joseph, 1632-1710
An assistance to justices of the peace, for the easier performance of their duty.
London, 1689. fol.
- 8: Chaucers Works**
Chaucer, Geoffrey, d. 1400

- The works of our ancient, learned, and excellent English poet, Geoffrey Chaucer: ...
London, 1687. fol.
- 9: Hales Originacon of Mankind**
Hale, Matthew, Sir, 1609-1676
The primitive origination of mankind, considered and examined according to the light of nature.
London, 1677. fol.
- 10: Thevenots Travells into the Levant**
Thévenot, Jean de, 1633-1667
The travels of Monsieur de Thevenot into the Levant. In three parts. Viz. into I. Turkey. II. Persia. III. the East-Indies. ...
London, 1687. fol.
NOTES: A translation, by Archibald Lowell, of: Thévenot, Jean de. Relation d'un voyage fait au Levant
- 11: Heylins Cosmografy**
Heylyn, Peter, 1600-1662
Cosmography in four books. Containing the chorography and history of the whole world, and all the principal kingdoms, provinces, seas, and isles thereof. ...
London, 1674. fol.
NOTES: Enlarged from the author's "Microcosmus", first published at Oxford, 1621, and subsequently published as "Microcosmos"
- 12: Josephus History of the warrs of the Jews**
Josephus, Flavius
The lamentable and tragical history of the wars and utter ruine of the Jewes, comprised in seven bookes, and newly tr. out of the Latine, and French, into English, by Tho. Lodge.
London, 1693. fol.
NOTES: Contained in: The works of Josephus. London, 1693. fol.
- 13: Eusebius Ecclesiasticall History**
Eusebius Pamphili, Bishop of Caesarea, ca. 260-ca. 340
The ancient ecclesiasticall histories of the first six hundred years after Christ, ... Hereunto is added, Eusebius his life of Constantine, in four books. With Constantines oration to the clergy
6th edition
London, 1663. fol.
- 14: Mistory of Husbandry**
Worlidge, John, fl. 1660-1698
Systema agriculturae; the mystery of husbandry discovered. ...
4th edition
London, 1687. fol.
- 15: Causins holy Court**
Caussin, Nicolas, 1583-1651
The holy court in five tomes.
4th edition
London, 1678. fol.
NOTES: A translation of: La cour sainte
- 16: Denierbrooke Anatomy English**
Diemerbroeck, Ysbrand van, 1609-1674

- Salmon, William, 1644-1713 (tr.)
 The anatomy of human bodies; comprehending the most modern discoveries and curiosities in that art. ...
 London, 1694. fol.
 NOTES: A translation of: *Anatome corporis humani*...
- 17: Bishopp Ushers life and letters**
 Parr, Richard, 1617-1691
 Ussher, James, 1581-1656
 The life of the Most Reverend Father in God, James Usher, late Lord Arch-Bishop of Armagh, primate and metropolitan of all Ireland. With a Collection of three hundred letters, ...
 London, 1686. fol.
- 18: Doctor Caves life of the Apostles**
 Cave, William, 1637-1713
 Antiquitates apostolicae: or, the history of the lives, acts and martyrdoms of the holy apostles of Our Saviour, and two evangelists, SS. Mark and Luke...
 5th edition
 London, 1684. fol.
 NOTES: First published as the second part of Jeremy Taylor's *Antiquitates christianae*, London, 1675.
 Cf:
 Taylor, Jeremy, 1613-1667
 Cave, William, 1637-1713
 Antiquitates christianae: or, The history of the life and death of the holy Jesus: ... The second, containing The lives of the Apostles, ... by William Cave...
 7th edition
 London, 1684. fol.
- 19: Pembroke Arcadia A Romance**
 Sidney, Philip, Sir, 1554-1586
 The Countess of Pembroke's Arcadia...
 13th edition
 London, 1674. fol.
- 20: Tongs Jesuits Moralls**
 Perrault, Nicholas, ca. 1611-1661
 Tonge, Ezerel, 1621-1680 (tr.)
 The Jesuits morals: or, The principal errors which the Jesuits have introduced into Christian morality. ...
 London, 1679. fol.
 NOTES: A translation, by Ezerel Tonge, of: Perrault, Nicholas. *Morale des jesuites*
- 21: Doctor Hylin on the Creede**
 Heylyn, Peter, 1600-1662
 Theologia veterum: or the summe of Christian theologie, positive, polemical, and philological, contained in the Apostles creed, or reducible to it... In three books.
 London, 1673. fol.
- 22: Calderwoods History of Scotland**
 Calderwood, David, 1575-1650
 The true history of the church of Scotland, from the beginning of the reformation, unto the end of the reign of King James VIth. Beginning 1560. and ending 1625.

- London, 1681. fol.
- 23: **Cowles Law Dictionary**
 Cowell, John, 1554-1611
 Manley, Thomas, 1628-1690 (ed.)
Νομοθετης. The interpreter, containing the genuine signification of such obscure words and terms used either in the common or statute lawes of this realm. ...
 2nd edition
 London, 1684. fol.
 NOTES: Enlarged by Thomas Manley from Cowell's "The interpreter: or, books containing the signification of words", first published at Cambridge, 1607, and subsequently published as "The interpreter"
- 24: **Duty of Mans works**
 Allestree, Richard, 1619-1681
 The works of the learned and pious author of The whole duty of man.
 3rd impression
 Oxford and London, 1695. fol.
 NOTES: Written by Richard Allestree. Cf. DNB
 Also variously ascribed to Lady Dorothy Pakington, Richard Sterne, John Fell, Humphrey Henchman, and others. Cf. DNB
 Pakington, Dorothy Coventry, Lady, d. 1679
 Sterne, Richard, 1596?-1683
 Fell, John, 1625-1686
 Henchman, Humphrey, 1592-1675
- 25: **Heylins Tracts**
 Heylyn, Peter, 1599-1662
 Historical and Miscellaneous Tracts, collected by the Rev. George Vernon, with an Account of his Life.
 London, 1681. fol
- 26: **Bishop Haketts Sermons**
 Hacket, John, 1592-1670
 Plume, Thomas, 1630-1704 (pub.)
 A century of sermons upon several remarkable subjects: Preached by the Right Reverend Father in God, John Hacket...
 London, 1675. fol.
- 27: **Cradocks Harmony**
 Cradock, Samuel, 1621?-1706
 The harmony of the four evangelists, and their text methodiz'd, according to the order and series of times, in which the several things by them mentioned, were transacted. ...
 London, 1670. fol.
- 28: **Milvills Memories**
 Melville, James, Sir, 1535-1617
 Scot, George, d. 1685 (ed.)
 The memoires of Sir James Melvil of Hal-Hill... Now published from the original manuscript. By George Scott, Gent.
 London, 1683. fol.
- 29: **Lauds agst Fisher the Jesuit**
- 42: **Laud agst Fisher**
 Laud, William, 1573-1645

- Fisher, John, 1569-1641
 A relation of the conference between William Laud, Late Lord Arch-Bishop of Canterbury, and Mr. Fisher the Jesuit, by the command of King James, of ever blessed memory. With an answer to such exceptions as A.C. takes against it.
 4th edition
 London, 1686. fol.
 NOTES: A reply to: A.C. True relations of sundry conferences had between certain Protestant doctours and a Iesuite called M. Fisher
 Running title: Arch-Bishop Laud against Fisher the Jesuit
- 30: Bentivolds warrs of Flanders**
 Bentivoglio, Guido, 1577-1644
 Monmouth, Henry Carey, Earl of, 1596-1661 (tr.)
 The history of the warrs of Flanders: written in Italian by that learned and famous Cardinal Bentivoglio; Englished by the Right Honorable Henry Earl of Monmouth. ...
 London, 1678. fol.
 NOTES: A translation of: Bentivoglio, Guido. Della guerra di Fiandra
- 31: Stapletons Translacon of Juvenal**
 Juvenal
 Stapylton, Sir Robert, d. 1669 (tr.)
 Juvenal's sixteen satyrs or, A survey of the manners and actions of mankind...
 3rd edition
 London, 1673. fol.
 NOTES: A translation, by Sir Robert Stapylton, of: Juvenal. Works
 First edition of this translation: The first six satyrs of Juvenal... By Sir Rob: Stapylton Knight... Oxford, 1644. 8vo; Stapleton published a complete translation in 1647.
- 32: Seldins Tracts**
 Selden, John, 1584-1654
 Tracts written by John Selden of the Inner-Temple, Esquire. ...
 London, 1683. fol.
- 33: Comon Prayer Oxford without psalms**
 The book of common prayer, and administration of the sacraments, and other rites and ceremonies of the Church, according to the use of the Church of England: together with the Psalter or Psalms of David, pointed as they are to be sung or said in churches.
 Oxford, 1693. fol.
 NOTES: Leaves A4,5, B2,4, M5, 2L1, and 2N2,4,6 are cancels printed after the death of Queen Mary in 1694. (ESTC r036538)
- 34: Bentivolio and Urania**
 Ingelo, Nathaniel, 1621?-1683
 Bentivolio and Urania, in six books.
 4th edition
 London, 1682. fol.
- 35: Grews Rarities of Greishams Coll**
 Grew, Nehemiah, 1641-1712
 Musaeum Regalis Societatis. Or a catalogue & description of the natural and artificial rarities belonging to the Royal Society and preserved at Gresham Colledge. ...
 London, 1694. fol.
 NOTES: A reissue of the 1681 edition with new title page and portrait
- 36: Sibals History of Scotland**

- Sibbald, Robert, Sir, 1641-1722
 Scotland illustrated: or, An essay of natural history, ...
 Edinburgh, 1684. fol.
 NOTES: A reissue, with cancel title page, of "Scotia illustrata" (Wing S3727)
- 37: Book of Homelys**
 Certain sermons or homilies, appointed to be read in churches in the time of Queen Elizabeth of famous memory...
 Oxford, 1683. fol.
- 38: Caves lives of the Fathers**
 Cave, William, 1637-1713
 Apostolici: or, The history of the lives, acts, death, and martyrdoms of those who were contemporary with, or immediately succeeded the Apostles. As also the most eminent of the primitive fathers for the first three hundred years. ...
 3rd edition
 London, 1687. 2 v. fol.
 NOTES: Half-title: Lives of the primitive fathers
 Volume 2 has title: "Ecclesiastici: or, The history of the lives, acts, death, & writings, of the most eminent fathers of the church, that flourisht in the fourth century. ..."
- 39: Tarsis and Zely a Romance**
 Le Vayer de Boutigny, M (Roland), 1627-1685
 Williams, Charles, 17th cent (tr.)
 The famous romance of Tarsis and Zelie. Digested into ten books.
 London, 1685. fol.
 NOTES: A translation by Charles Williams of: Le Vayer de Boutigny, Roland. Tarsis et Zelie
- 40: Comon Prayer noe alteracons**
 The book of common prayer, and administration of the sacraments, and other rites and ceremonies of the church, according to the use of the Church of England: together with the psalter or psalms of David, pointed as they are to be sung or said in churches.
 London, 1693. fol.
 NOTES: See 33.
- 41: Welshe Comon Prayer folio**
 Llyfr gweddi gyffredin, a gweinidogaeth y sacramentau, a chynneddfau a ceremoniau eraill yr Eglwys, yn ol arfer Eglwys Loegr, ynghyd a'r Psallwyr neu Psalmau Dafydd.
 A brintwyd yn Llundain, 1664. fol.
- 42: Laud agst Fisher**
 See 29: Lauds agst Fisher the Jesuit
- 43: Salmons Iratia Praxis Medici**
 Salmon, William, 1644-1713
 Iatrica: seu praxis medendi. The practice of curing diseases. Being a medicinal history of near two hundred famous observations in the cure of diseases, performed by the author hereof. ...
 14th edition
 London, 1694. 4to
- 44: Doctor Parkers Law of nature**
 Parker, Samuel, 1640-1688
 A demonstration of the divine authority of the law of nature and of the Christian religion.

London, 1681. 4to

45: English Gardner

Meager, Leonard, 1624?-1704?

The English gardener: or, A sure guide to young planters and gardeners in three parts. ...

London, 1688. 4to

46 and 46a: Scamozzi Architectorie Marshams Masterpiece

(46)

Scamozzi, Vincenzo, 1552-1616

The mirror of architecture: or The ground-rules of the art of building, exactly laid down by Vincent Scamozzi master-builder of Venice. ... Translated out of Dutch by W.F. ...

4th edition

London, 1676. 4to

NOTES: A translation, by William Fisher, of: Vincenzo Scamozzi, *Idea dell'architettura universale*

W. F. = William Fisher.

(46a)

Markham, Gervase, 1568?-1637

Markham's master-piece revived; containing all knowledge belonging to the smith, farrier, or horse-leach, touching the curing all diseases in horses. ... Divided into two books. ...

15th time imprinted

London, 1694 [i.e. 1695]. 4to

47 and 47a: Patricks paroble of the Pilgrime Paladies Archetectorie

(47)

Patrick, Simon, 1626-1707

The parable of the pilgrim: written to a friend.

6th edition

London, 1687. 4to

(47a)

Palladio, Andrea, 1508-1580

Le Muet, Pierre, 1591-1669

Richards, Godfrey (tr.)

The first book of architecture, by Andrea Palladio translated out of Italian: with an appendix touching doors and windows, by Pr Le Muet architect to the French King. Translated out of French by G.R. ...

5th edition

London, 1693. 4to

NOTES: Translated from: Palladio, Andrea. *Quattro libri dell'architettura*; and from: Le Muet, Pierre. *Divers traictez d'architecture pour l'art de bien bastir*

48: Prideox Introduction to History

Prideaux, Mathias, 1622-1646?

An easy and compendious introduction for reading all sorts of histories...

6th edition

Oxford, 1682. 4to

49: Gadbery Effemeridie

Gadbury, John, 1627-1704

Ephemerides of the celestial motions and aspects, eclipses of the luminaries, &c. for XX years. Beginning anno 1682. and ending an. 1701. ...

- London, 1680. 4to
- 50: Godolphius Abridgment**
 Godolphin, John, 1617-1678
 Repertorium canonicum: or, an abridgment of the ecclesiastical laws of this realm, consistent with the temporal. ...
 3rd edition
 London, 1687. 4to
- 51: History of the Councell of Trent**
 Jurieu, Pierre, 1637-1713
 The history of the Council of Trent. In eight books. ...
 London, 1684. 8vo
 NOTES: A translation of: Jurieu, Pierre, Abrege de l'histoire du Concile de Trente
- 52: Lestrang translacon of Erasmus**
 Cf: 160: Erasmus
 Erasmus, Desiderius, d. 1536
 L'Estrange, Sir Roger, 1616-1704 (tr.)
 Select colloquies out of Erasmus Roterodamus; pleasantly representing several superstitious levities that were crept into the Church of Rome in his days.
 2nd impression
 London, 1689. 8vo
- 53: Young Clerks Guide Four partes in One**
 Hutton, Richard, Sir, 1561?-1639
 The young clerk's guide in four parts. Or an exact collection of choice English presidents...
 16th edition
 London, 1690. 8vo
- 54: Doctor Harnecks best Excercise**
 Horneck, Anthony, 1641-1697
 The happy ascetick: or, The best exercise. ...
 3rd edition
 London, 1693. 8vo
- 55: Antonius Meditacons English**
 Aurelius Antoninus, Marcus, Emperor of Rome, 121-180
 Casaubon, Meric, 1599-1671 (tr.)
 The meditations of Marcus Aurelius Antoninus the Roman emperor, concerning himself. ...
 5th edition
 London, 1692. 8vo
- 56: Burnetts pasturall care**
 Burnet, Gilbert, 1643-1715
 A discourse of the pastoral care.
 London, 1692. 8vo
- 57: Salmons Compleate English Phisition**
 Salmon, William, 1644-1713
 Sepladium. The compleat English physician: or, The druggist's shop opened... In x. books...
 London, 1693. 8vo
- 58: His Dorum Medicum**

- Salmon, William, 1644-1713
 Doron medicum: or, A supplement to the new London dispensatory. In three books. ...
 2nd edition
 London, 1688. 8vo
- 59: Greenwood of Corts**
 Greenwood, Will (William)
Βουλευτηριον; or, A practical demonstration of county judicatures...
 6th edition
 London, 1685. 8vo
 NOTES: Binder's title: Greenwood's country courts.
- 60: Plutarchs Moralls in 5 Volls**
 Plutarchus
 Plutarch's Morals: translated from the Greek by several hands.
 London, 1694. 5 v. 8vo
 NOTES: Volume 1 and 2 are 3rd edition ; volume 3 to 5 are 2nd edition
- 61: Wartons Works**
 Wharton, George, Sir, 1617-1681
 Gadbury, John, 1627-1704 (ed.)
 The works of that late most excellent philosopher and astronomer, Sir George Wharton,
 bar. Collected into one entire volume.
 London, 1683. 8vo
- 62: Decay of Christian Piety**
 Allestree, Richard, 1619-1681
 The causes of the decay of Christian piety. Or An impartial survey of the ruines of Christian
 religion, undermin'd by unchristian practice.
 London, 1694. 8vo
 NOTES: Attributed to Richard Allestree. Sometimes also attributed to Dorothy Pakington,
 Richard Sterne, John Fell, or Humphrey Henchman and others. See 24
- 63: Turens life**
 Courtilz de Sandras, Gatiens, 1644-1712
 Spence, Ferrand (tr.)
 The history of the life and actions of that great captain of his age the Viscount de Turenne.
 London, 1686. 8vo
- 64: Aristotles Rhetotick English**
 Aristoteles
 Aristotle's Rhetoric; or the true grounds and principles of oratory; shewing, the right art
 of pleading [sic] and speaking in full assemblies and courts of judicature. ... In four
 books.
 2nd edition
 London, 1693. 8vo
- 65: Art of Contentment**
 Allestree, Richard, 1619-1681
 The art of contentment.
 Oxford, 1694. 8vo
 NOTES: Written by Richard Allestree. Cf. DNB
 Also variously attributed to Lady Dorothy Pakington, Richard Sterne, John
 Fell, Humphrey Henchman, and others. Cf. DNB. See 24

- 66: Cornelius Nepos English**
 Nepos, Cornelius
 Finch, Leopold William, 1663?-1702 (tr.)
 The lives of illustrious men. Written in Latin by Corn. Nepos. And done into English by several gentlemen in the University of Oxon.
 2nd edition
 London, 1685. 8vo
 NOTES: Translated by Leopold William Finch and others.
- 67: Bishopp Jewell Apology**
 Jewel, John, 1522-1571
 The apology of the Church of England; and an epistle to one Seignior Scipio a Venetian gentleman, concerning the Council of Trent.
 London, 1685. 8vo
 NOTES: A translation of: Jewel, John. *Apologia ecclesiae anglicanae*
- 68: Janaway Heaven on Earth**
 Janeway, James, 1636?-1674
 Heaven upon earth: or, the best friend in the worst of times. Delivered in several sermons...
 7th edition
 London, 1685. 8vo
- 69: Leyborne Arethmatick**
 Leybourn, William, 1626-1716
 Arithmetick: vulgar, decimal, instrumental, algebraical, in four parts. ...
 6th edition
 London, 1693. 8vo
- 70: Woottons Colleecon of Lives and letters**
 Wotton, Henry, Sir, 1568-1639
 Reliquiae Wottonianae: or, a collection of lives, letters, poems...
 4th edition
 London, 1685. 8vo
- 71: Parkers Religion and Loyally**
 Parker, Samuel, 1640-1688
 Religion and loyalty: or, a demonstration of the power of the Christian church within it self. ...
 London, 1684. 8vo
 NOTES: Religion and loyalty. The second part. ... London, 1685. 8vo
- 72: Lively Oracles**
 Allestree, Richard, 1619-1681
 The lively oracles given to us: or, The Christian's birth-right and duty, in the custody and use of the Holy Scripture.
 3rd edition
 Oxford, 1688. 8vo
 NOTES: Written by Richard Allestree. Cf. DNB
 Also variously ascribed to Lady Pakington, Richard Sterne, John Fell, Humphrey Henchman, and others. Cf. DNB. See 24
- 73: Salmons Medici Practina**
- 93: Salmons Medicinia Practica**
 Salmon, William, 1644-1713
 Medicina practica: or, Practical physick. Shewing the method of curing the most usual

- diseases happening to humane bodies. ... The whole compleated in three books.
London, 1692. 8vo
- 74: Patrick on the Proverbs**
Patrick, Simon, 1626-1707
The proverbs of Solomon paraphrased...
London, 1694. 8vo
- 75: Tayler on the Sacrament**
Taylor, Jeremy, 1613-1667
The worthy communicant: or, A discourse of the nature, effects, and blessings consequent
to the worthy receiving of the Lords Supper...
London, 1695. 8vo
NOTES: In Clavel's The general catalogue: Taylor on the Sacrament, or a discourse of the
nature, effects, and blessings consequent to the worthy receiving of the Lords Supper...
- 76: History of the warrs of Cyprus**
Graziani, Antonio Maria, 1537-1611
Midgley, Robert, 1655?-1723 (tr.)
The history of the war of Cyprus. ...
London, 1687. 8vo
NOTES: A translation of: Graziani, Antonio Maria. De bello Cyprio
Translator's dedication signed: Robert Midgley
- 77: Vanhelmonts Paradoxis**
Helmont, Franciscus Mercurius van, 1618-1699
The paradoxal discourses of F. M. van Helmont, concerning the macrocosm and micro-
cosm, or the greater and lesser world, and their union. Set down in writing by J. B. and
now published.
London, 1685. 8vo
- 78: Sherlocks Tract Christian**
Sherlock, R (Richard), 1612-1689
The practical Christian: or, The devout penitent. A book of devotion, containing the whole
duty of a Christian, in all occasions and necessities; fitted to the main uses of a holy life. In
four parts. ...
5th edition
London, 1693. 8vo
- 79: Poole nullity of the Romish faith**
Poole, Matthew, 1624-1679
The nullity of the Romish faith; or A blow at the root of the Romish Church...
London, 1679. 8vo
- 80: Lucas Practicall Christianity**
Lucas, Richard, 1648-1715
Practical Christianity: or, An account of the holinesse which the Gospel enjoyns, with the
motives to it, and the remedies it proposes against temptations, with a prayer concluding
each distinct head.
4th edition
London, 1693. 8vo
NOTES: Anonymous. By Richard Lucas
- 81: Governmt of the Thoughts**
- 146: Government of the thoughts**

- Allestree, Richard, 1619-1681
 The government of the thoughts: a prefatory discourse to The government of the tongue, by the author of The whole duty of man.
 London, 1694. 8vo
 NOTES: "The whole duty of man" and "The government of the tongue" are attributed to Richard Allestree. The present work was written after Allestree's death
- 82: Aswoods heavenly trade**
- 147: Ashwoods heavenly trade**
 Ashwood, Bartholomew, 1622-1680
 The heavenly trade, or The best merchandizing: the only way to live well in impoverishing times. ...
 2nd edition
 London, 1688. 8vo
- 83: Partridge treasury of Phisick**
 Mynsicht, Adrian von, 1603-1638
 Partridge, John, 1644-1715 (tr.)
 Thesaurus & armamentarium medico-chymicum: or, A treasury of physick. ...
 London, 1682. 8vo
- 84: Heathen Godds**
 Gautruche, Pierre, 1602-1681
 The poetical history: being a compleat collection of all the stories necessary for a perfect understanding of the Greek and Latin poets, and other authors. Written originally in French, by the learnes Jesuite, P. Galtruchius. Now Englished...
 6th edition
 London, 1693. 8vo
 NOTES: A translation of: Gautruche, Pierre, L'histoire poetique, pour intelligence des poetes & des auteurs anciens
 On cover: History of heathey gods. Cf. NUC pre-1956.
- 85: Present state of the teritory in America**
- 148: prsent state of America**
 Blome, Richard, d.1705
 The present state of His Majesties isles and territories in America...
 London, 1687. 8vo
- 86: Rutherford letters**
 Rutherford, Samuel, 1600?-1661
 Joshua redivivus; or, Mr. Rutherford's letters, divided in three parts. ...
 4th edition
 London, 1692. 8vo
- 87: Patrick Mensa Mistica**
 Patrick, Simon, 1626-1707
 Mensa mystica: or, A discourse concerning the sacrament of the Lords Supper. ...
 5th edition
 London, 1684. 8vo
- 88: Introduccon of the whole tract Phisick**
- 125: Twoe Introduccon Praticce of Phisick**
- 149: Introduction to the whole practice of Phisicke**
 Wedel, Georg Wolfgang, 1645-1721
 An introduction to the whole practice of physick. Shewing the natures and faculties of

medicines, the reason and manner of their operations, and to what particular parts they are appropriated. ...

London, 1685. 8vo

NOTES: A translation of: Wedel, Georg Wolfgang. De medicamentorum facultatibus cognoscendis et applicandis

89: Isish Hudibrase

Farewell, James, supposed author

The Irish Hudibras, or Fingallian prince, taken from the sixth book of Virgil's Aeneids, and adapted to the present times.

London, 1689. 8vo

90: Ellis of serious Consideraccon

Ellis, Clement, 1630-1700

The necessity of serious consideration, and speedy repentance, as the only way to be safe both living and dying.

London, 1691. 8vo

91: History of Infamous Imposters

Rocoles, Jean-Baptiste de, 1620-1696

The history of infamous impostors. Or, The lives and actions of several notorious counterfeits...

London, 1683. 8vo

NOTES: Translation of: Les imposteurs insignes

92: Idea of Christian Love

Young, Edward, 1643-1705

Waller, Edmund, 1606-1687 (tr.)

The idea of Christian love. Being a translation, at the instance of M. Waller, of a Latin sermon upon John xiii, 34, 35. Preach'd by Mr. Edward Young, prebend of Salisbury. ...

London, 1688. 8vo

93: Salmons Medicinia Practica

See 73: Salmons Medici Practina

94: Taylers contemplacons

Nieremberg, Juan Eusebio

Contemplation of the state of man in this life, and in that which is to come...

4th edition

London, 1692. 8vo

NOTES: Jeremy Taylor is a supposed author

95: Hokenis Gods desire

Hockin, Thomas

A discourse of the nature of God's decrees: being an answer to a letter from a person of quality concerning them...

London, 1684. 8vo

96: Chamberlains state of England Old Ediccon

Chamberlayne, Edward, 1616-1703

Angliae notitia: or, The present state of England compleat. Together with divers reflections upon the ancient state thereof.

17th edition

London, 1691-92. 2v. 12mo

NOTES: The eighteenth edition, in three parts, was published in 1694, 8vo

97-98: 2 Patricks Christian Sacrifice Quarlls Emblins

(97)

Patrick, Simon, 1626-1707

The Christian sacrifice. A treatise shewing the necessity, end, and manner of receiving the Holy Communion... In four parts.

10th edition

London, 1693. 12mo

NOTES: Anonymous. By Simon Patrick

(98)

Quarles, Francis, 1592-1644

Emblemes by Fra: Quarles.

London, 1684. 8vo

99: Method of Devocon

Jurieu, Pierre, 1637-1713

Fleetwood, William, 1656-1723 (tr.)

A plain method of Christian devotion: laid down in discourses, meditations, and prayers, fitted to the various occasions of a religious life.

22nd edition

London, 1692. 12mo

100: Duty of Man

Allestree, Richard, 1619-1681

The whole duty of man, laid down in a plain and familiar way for the use of all, but especially the meanest reader. Divided into XVII. chapters...

London, 1695. 2 v. 12mo

NOTES: Published anonymously, 1658 under title: The practice of Christian graces, or, The whole duty of man, and variously attributed to Lady Dorothy Pakington, Archbishop Sterne, Bishop John Fell and others, although now generally attributed to Richard Allestree--DNB. See 24

101: Walker of educacon

Walker, Obadiah, 1616-1699

Of education. Especially of young gentlemen. In two parts.

5th impression

Oxford, 1687. 12mo

NOTES: Anonymous. By Obadiah Walker

102: Morrall Essay of the soule of Man

A moral essay upon the soul of man. In three parts. Done out of French.

London, 1690. 8vo

103: Practis of Piety

Bayly, Lewis, d. 1631

The practice of piety: directing a Christian how to walk, that he may please God. Amplified by the author.

42nd edition

London, 1695. 12mo

104: May's Breviary

May, Thomas, 1595-1650

A breviary of the history of the Parliament of England. Expressed in three parts: ...

London, 1689. 8vo

NOTES: A translation of: *Historiae Parliamenti Angliae breviarum*

- 105: Mathers Young Mans companion**
 Mather, W (William), fl. 1695
 The young mans companion: or, arithmetick made easie. ...
 4th edition
 London, 1695. 12mo
 NOTES: Originally published with title: A very useful manual
- 106: Burnetts travells**
 Burnet, Gilbert, 1643-1715
 Dr. Burnet's travels, or Letters containing an account of what seemed most remarkable in
 Switzerland, Italy, France, and Germany, &c.
 Amsterdam, 1687. 12mo
 NOTES: Originally published in 1686 as: Some letters
- 107: Esopp Fables English**
 Cf. 167: Four Esopps Fables
 Aesopus
 Aesop Fables, with their moralls, in prose and verse grammatically translated...
 12th edition
 London, 1691. 12mo
- 108: Witts Comon Wealth**
 N. L (Nicholas Ling), fl. 1580-1607
 Politeuphuia, wits common-wealth.
 London, 1688. 12mo
 NOTES: Running title reads: Wits common-wealth
 Sometimes ascribed to John Bodenham, who planned the collection, though the work ap-
 pears to have been done by Nicholas Ling. cf. Dedication, DNB and BM. Dedication and
 preface signed: N.L., i.e. Nicholas Ling
 Bodenham, John, fl. 1600, attributed name
- 109: Modern Curiosity**
 Lemery, Nicholas, 1645-1715
 Modern curiosities of art & nature. Extracted out of the cabinets of the most eminent per-
 sonages of the French Court. ...
 London, 1685. 12mo
- 110: Queens Closett**
 W. M (comp.)
 The Queens closet opened. Incomparable secrets in physick, chyrgery, preserving and
 candying, and cookery...
 London, 1683. 12mo
 NOTES: Letter to the reader signed W.M., who was the compiler of the work
- 111: Lucas guide to heaven**
 Lucas, Richard, 1648-1715
 The plain man's guide to heaven. Containing his duty I. Towards God. II. Towards his
 neighbour. ...
 London, 1692. 12mo
 NOTES: Attributed by Wing to Richard Lucas
- 112: Salust English**
 Sallustius Crispus, C., 86-34 B.C
 All the works of that famous historian Salust. ... Made English according to the present
 idiom of speech.

London, 1692. 8vo

113: Asemb: Confession of faith

The confession of faith: together with the larger and lesser catechisms. Composed by the Reverend Assembly of Divines, then sitting at Westminster: presented to both Houses of Parliament. Again published with the Scriptures at large, and the emphasis of the Scriptures in a different character. Licensed, April 30. 1688.

3rd edition

London, 1688. 12mo

114: Art of thinkeing

Nicole, Pierre, 1625-1695

Arnauld, Antoine, 1612-1694

Logic; or, The art of thinking... In four parts. ...

2nd edition

London, 1693. 12mo

NOTES: A translation of "La logique, ou l'art de penser" by Pierre Nicole and Antoine Arnauld

115: Baxters family booke

Baxter, Richard, 1615-1691

The poor man's family book. ...

5th edition

London, 1684. 12mo

116: Kerwoods new family booke

Kirkwood, James, 1650?-1708

A new family-book; or, The true interest of families. ...

2nd edition

London, 1693. 12mo

117: Owens Meditacons

Owen, John, 1616-1683

Meditations and discourses on the glory of Christ, in his person, office & grace...

London, 1691. 8vo

118: Doolittle Captive bound in Chains

Doolittle, Thomas, 1632?-1707

Captives bound in chains, made free by Christ their surety: or, The misery of graceless sinners, and their recovery by Christ their Saviour.

London, 1674. 8vo

119: Devine Addresses

Hugo, Herman, 1588-1629

Arwaker, Edmund, d. 1730 (tr.)

Pia desideria: or, divine addresses, in three books. Illustrated with XLVII. copper-plates.

2nd edition

London, 1690. 8vo

NOTES: Translation of: Pia desideria

120: Englands Remarks

England's remarques: giving an exact account of the several shires, counties, and islands in England and Wales...

London, 1682. 12mo

121: Tayles Golden Grove

- Taylor, Jeremy, 1613-1667
 The golden grove. A choice manual...
 18th edition
 London, 1695. 12mo
- 122: Bartons Himns**
 Barton, William, 1598?-1678
 Six centuries of select hymns and spiritual songs collected out of the Holy Bible...
 4th edition
 London, 1688. 12mo
- 123: One Old Doz of Bibles at 2s**
 The Holy Bible, containing the Old Testament and the New: newly translated out of the original tongues, and with the former translations diligently compared and revised. By His Majesties special command. Appointed to be read in churches.
 London, 1695. 8vo
- 124: halfe a Doz of Testaments wth Comon prayer**
 The New Testament of our Lord and Saviour Jesus Christ, newly translated out of the original Greek...
 Oxford, 1694. 8vo
- 125: Twoe Introduccon Praticke of Phisick**
 See 88: Introduccon of the whole tract Phisick
 Cf. 149: Introduction to the whole practice of Phisicke
- 126: Callendr of the Kings**
 Cooke, Edward, of the Middle Temple.
 Chronica juridicialia: or, A general calendar of the years of our Lord God, and those of the several kings of England, from the first year of William the Conqueror, successively down to this first year of the reign of our most dread sovereign K. James II. ...
 London, 1685. 8vo
 NOTES: Compiled by Edward Cooke. Cf. BM
 In part an abridgment of: Dugdale, Willilam. Origines juridiciales. Cf. DNB; Marvin's Legal bibl
- 127: Scotts Christian Life 2 vol**
 Scott, John, 1639-1695
 The Christian life. Part II. Wherein the fundamental principles of Christian duty are assigned, explained and proved. Volume I.
 4th edition
 London, 1695. 8vo
 The Christian life. Part II. Wherein that fundamental principle of Christian duty, the doctrine of our Saviours mediation is explained and proved. Volume II.
 3rd edition
 London, 1692. 8vo
- 128: Hamonds praticall Catt**
 Hammond, Henry, 1605-1660
 A practical catechism.
 13th edition
 London, 1691. 8vo
- 129: Scituacon of paradise**
 Coleraine, Henry Hare, Baron, 1636-1708

- The situation of paradise found out being an history of a late pilgrimage unto the Holy Land...
 London, 1683. 8vo
 NOTES: Attributed to Henry Coleraine. cf. NUC pre-1956
- 130: Reules holy life**
 Byfield, Nicholas, 1579-1622
 The rules of a holy life. Or A treatise containing the holy order of our lives, prescribed in the Scripture, concerning our carriage: towards God, towards men, towards our selues. ...
 London, 1619. 12mo
- 131: Beauty of holyness**
 Allestree, Richard, 1619-1681
 The beauty of holiness. Written by the author of The duty of man...
 4th impression
 London, 1684. 8vo
 NOTES: The author of The duty of man = Richard Allestree. See 24
- 132: Culpeprs english phisicon**
 Culpeper, Nicholas, 1616-1654
 The English physitian enlarged; with three hundred, sixty and nine medicines, made of English herbs that were not in any impression until this...
 London, 1695. 8vo
- 133: Fords Catt**
 Ford, Simon, 1619?-1699
 A plain and profitable exposition of, and enlargement upon, the Church-Catechism... together with the scheme of a shorter Catechism annexed...
 2nd edition
 London, 1686. 8vo
- 134: Mews practicall Chirurgery**
 Ryder, Hugh
 The new practice of chirurgery: being a methodical account of divers eminent observations, cases, and cures, very necessary and useful for surgeons, in the military and naval service.
 2nd edition
 London, 1693. 12mo
- 135: Thousand notable things**
 Lupton, Thomas
 A thousand notable things of sundry sorts, enlarged. ...
 London, 1686. 8vo
 NOTES: "The preface of the author to the reader" signed: Thomas Lupton
- 136: Tilysons Sermons 4 Vols.**
 Tillotson, John, 1630-1694
 Sermons preach'd upon several occasions.
 London, 1694. 4 v. 8vo
- 137: Cowles English and Latine Dictionary**
 Coles, Elisha, 1640?-1680
 A dictionary, English-Latin, and Latin-English...
 3rd edition
 London, 1692. 8vo

- 138: **Twoe Lexicons**
?
- 139: **Twenty Busbys Gramers**
Busby, Richard, 1606-1695
Rudimentum Anglo-Latinum grammaticae literalis & numeralis. In usum scholae regiae Westmonasteriensis.
London, 1688. 8vo
NOTES: Anonymous. By Richard Busby
- 140: **Twenty Testaments**
Cf. 124
- 141: **Six Shaws Gramers**
Shaw, Samuel, 1635-1696
Minerva's triumph: or, Gramar and rhetorick in all the parts of them, personated by youths in dramattick scenes in a country school. Presented to the view of all that love learning, but especially recommended to the perusal of young schollars, and the use of schools at their breakings up. By several school-masters.
London, 1683. 8vo
NOTES: An edition of: Shaw, Samuel. Words made visible
Running title reads: Words made visible
- 142: **Welshe Bible**
Y Bibl cyss-egr-lan
London, 1689. 8vo.
- 143: **Accademy of Complemts**
Philomusus, fl. 1640
J. G (John Gough), fl. 1640, attributed name
The academy of complements newly refin'd. ...
5th edition
London, 1685. 8vo
NOTES: "The authors preface to the reader" signed: Philomusus, i.e. John Gough?
- 144: **French Gramer**
Festeau, Paul
Paul Festeau's French grammer...
6th edition
London, 1693. 8vo
- 145: **Twelve Lillys Gramers**
Lily, William, 1468?-1522
Robertson, Thomas, fl. 1520-1561
Colet, John, 1467?-1519
A short introduction of grammar compiled and set forth for the bringing up of all those that intend to attain to the knowledge of the Latin tongue.
London, 1695. 8vo
NOTES: Anonymous. By William Lily, with contributions by John Colet, Thomas Robertson, and others
"Brevisissima institutio" has separate title page
- 146: **Government of the thoughts**
See 81: Governmt of the Thoughts
- 147: **Ashwoods heavenly trade**

See 82: Aswoods heavenly trade

148: present state of America

See 85: Present state of the territory in America

149: Introduction to the whole practice of Phisicke

See 88: Introduccion of the whole tract Phisick
Cf. 125: Twoe Introduccion Prattice of Phisick

150: Combers Eppitomy of the Comon prayer

Comber, Thomas, 1645-1699

Short discourses upon the whole common-prayer, designed to inform the judgment and excite the devotion of such as daily use the same.

2nd edition

London, 1688. 8vo

151: Romans Antiquitys

152: Twoe more 2d hand

Goodwin, Thomas, 1586 or 7-1642

Romanae historiae anthologia recognita & aucta. An English exposition of the Roman antiquities...

London, 1695. 4to

NOTES: Attributed to Thomas Godwin. cf. NUC pre-1956

153: Homers Elliods

Homerus

Sylvanus, Georgius (ed.)

Homeri Iliados liber primus. ...

Editio secunda

London, 1687. 8vo

NOTES: In Latin with extensive passages in Greek

154: Minor Poetts

Winterton, Ralph, 1600-1636 (ed.)

Poetae minores Graeci. Hesiodus, Theocritus, Moschus, Bion Smyrn. ...

Cambridge, 1684. 8vo

NOTES: In verse. Greek and Latin on facing pages

155: Walkers Ideums

Walker, William, 1623-1684

Idiomatologia Anglo-Latina, sive, Dictionarium idionaticum Anglo-Latinum...

6th edition

London, 1695. 12mo

NOTES: With engraved title page, preceding title page, reading: A dictionarie of English and Latine idiomes...

Running title reads: English and Latin idioms and phrases

156: Walkers Particles

Walker, William, 1623-1684

A treatise of English particles, shewing much of the variety of their significations and uses in English...

11th edition

London, 1695. 8vo

157: Cambridge Frayzes

Robertson, William, d. 1686?

- Phraseologia generalis... = A full, large, and general phrase book...
 Cambridge, 1695. 8vo
 NOTES: The last leaf is a vertical half-title: Cambridge phrases
- 158: Busbys Greeke Gramer**
 Busby, Richard, 1606-1695
 Graecae grammatices rudimenta. In usum scholae regiae Westmonasteriensis.
 London, 1693. 8vo
 NOTES: Attributed to Richard Busby, who at least compiled it
 Text in Latin and Greek
- 159: Herodian Greeke & Latine**
 Herodianus
 Poliziano, Angelo, 1454-1494 (tr.)
 Hanke, Martin, 1633-1709
 Ἡρωδιανου ἱστοριων βιβλιαη. Herodiani historiarum libri 8. Recogniti & notis illustrati.
 Oxford, 1678. 8vo
 NOTES: Greek and Latin in parallel columns. Latin translation by Angelo Poliziano
- 160: Erasmus**
 Cf 52: Lestrang translacon of Erasmus
- 161: Dupart psalms Greeke & Latine**
 Duport, James, 1606-1679
 Δαβιδης ἔμμετρος, sive, Metaphrasis libri Psalmorum graecis versibus contexta.
 London, 1674. 8vo
- 162: Howels Gramer**
 Howell, James, 1594?-1666
 A new English grammar, prescribing as certain rules as the language will bear, for
 forreners to learn English: ther is also another grammar of the Spanish or Castilian toung,
 with som special remarks upon the Portugues dialect, &c. ...
 London, 1662. 8vo
 NOTES: By James Howell, whose initials appear in the volume
 With an added Spanish title page: Gramatica de la lengua Inglesa, prescribiendo reglas
 para alcacancarla .. London, 1662
 Parallel texts in English and Spanish
- 163: Clavis Homericæ**
 Roberti, Antonius, 17th cent
 Perkins, George, 17th cent (ed.)
 Clavis Homericæ, reserans...
 London, 1673. 8vo
 NOTES: R.P.N.N. = Antonius Roberti; G.P. = George Perkins
- 164: Six Ovidds Metamorphosis**
 Ovidius Naso, Publius, 43 B.C.-17 or 18 A.D
 Sandys, George, 1578-1644 (tr.)
 Ovids Metamorphosis Englished, by Geo. Sandys.
 8th edition
 London, 1690. 12mo
- 165: Three seneca's tradegees**
 Seneca, Lucius Annaeus, ca. 4 B.C.-65
 Tragoediae...

- London, 1676. 12mo
- 166: Four Tully Offices**
 Cicero, Marcus Tullius
 L'Estrange, Sir Roger, 1616-1704 (tr.)
 Tully's offices, in three books. ...
 4th edition
 London, 1688. 12mo
 NOTES: A translation of: Cicero, Marcus Tullius. De officiis
- 167: Four Esopps Fables**
 See 107: Esopp Fables English
- 168: Three Walkers English examples**
 Walker, William, 1623-1684
 English examples of the Latin syntaxis: or, the rules of the Latin syntaxis exemplify'd in
 English sentences, ...
 London, 1692. 12mo
- 169: A Old Greeke Testament**
 Της καινης Διαθηκης Απαντα. Novi Testamenti
 London, 1688. 12mo
- 170: Six Cordealls**
 ?
- 171: Walker Art of teaching**
 Walker, William, 1623-1684
 Some improvements to the art of teaching, especially in the first grounding of a young
 scholar in grammar learning. ...
 5th edition
 London, 1693. 12mo
 NOTES: Running title: The art of teaching improved in the grounding of a young scholar

注

- (1) リュシアン・フェーブル, アンリ=ジャン・マルタン (関根素子他訳)『書物の出現』(東京: 筑摩書房, 1985) 上巻, 4頁。
- (2) 長谷川輝夫「書物の社会史と読書行為」, ロジェ・シャルチエ (長谷川輝夫訳)『書物の秩序』(東京: 文化科学高等研究院, 1993) 所収, 227-277頁。
- (3) Robert Darnton, "What is the History of Books?", in Kenneth E. Carpenter, ed., *Books and society in history: papers of the Association of College and Research Libraries Rare Books and Manuscripts Preconference, 24-28 June, 1980, Boston, Massachusetts* (New York: R.R.Bowker Company, 1983), p.3.
- (4) E. S. Leedham-Green, *Books in Cambridge inventories: books-lists from Vice-Chancellor's Court probate inventories in the Tudor and Stuart periods* (Cambridge: Cambridge University Press, 1986), 2 vols.

- (5) cf: A. N. L. Munby and Lenore Coral, comp. and ed., *British book sale catalogues, 1676-1800: a union list* (London: Mansell, 1977).
- (6) “Inventory of the books and goods of Roger Williams”, in Hereford Record Office, Hereford City MSS, vol.5: miscellaneous papers, 1651-1847, BG11/17/5, fol.88-91; F. C. Morgan, “A Hereford bookseller’s catalogue of 1695”, in *Transactions of the Woolhope Naturalists’ Field Club*, vol.31 (1942-44), pp.22-36. ここにはオリジナル史料の転写の他、簡略表記の書物名を現存する書物と同定した書誌の一覧、および登場する書物の分野傾向に関する簡潔な分析が著されている。
- ところで、この論文の中でモーガンは、オリジナル史料が実は二つあり、一方には登場しない書物ももう一方には3タイトルあることを発見したと述べている。Morgan, *ibid.*, p.24, 36. 筆者は残念ながら3タイトル少ない史料の方しか閲覧することができなかった。したがって、以下の論述に際しては自分の確認した史料にのみ基づいて行うこととする。
- (7) Marjorie Plant, *The English book trade: an economic history of the making and sale of books*. 3rd edition (London: George Allen & Urwin, 1974), p.80.
- (8) Graham Pollard, “The English market for printed books: The Sandars Lectures, 1959”, in *Publishing History*, 4 (1978), p.10-11.
- (9) Edward Arber, ed., *A transcript of the registers of the Company of Stationers of London: 1554-1640 A.D.* (Gloucester, Mass.: Peter Smith, 1967), vol.I, pp.xxviii-xxxii; Plant, *The English book trade*, p.63, 81.
- (10) Plant, *The English book trade*, pp.256-257.
- (11) Pollard, “The English market”, pp.17-25. 次の一連の論文はイギリスにおける著作権制度の確立を史的に跡づけたもので、この件に関する16-17世紀のロンドン書籍商組合の活動の軌跡をたどることができる。白田秀彰「コピーライトの史的展開 (1)-(4)」『一橋研究』第19巻第4号 (1995) 47-68頁, 第20巻第1号 (1995) 1-30頁, 第3号 (1995) 25-52頁, 第4号 (1996) 109-141頁。
- (12) 荷馬車や駄馬を使う運送業者や荷を担いで歩く行商人それぞれが取り扱う商品の幅と量の違いについては, Margaret Spufford, *The great re-clothing of rural England: petty chapmen and their wares in the seventeenth century* (London: The Hambledon Press, 1984), pp.43-67を参照のこと。
- (13) Mirjam M. Foot, *Studies in the history of bookbinding* (Aldershot, Hants: Scolar Press, 1993), p.99; Plant, *The English book trade*, pp.206-212; Pollard, “The English market”, p.15. なお, 17世紀末までに, 板の材料として厚紙が主に使われるようになるなど, 装丁自体が次第に画一的で簡便なものへと変わっていく。Plant, pp.211-212.
- (14) Penelope E. Morgan, “An unrecorded seventeenth-century Hereford bookbinder”, *The Library*, 6th ser., vol.10 (1988), pp.145-150.

- (15) 「sowing press」は「shewing bench」又は「shewing frame」のこと。「shewing frame」は大きく平たい板とバーによってつながれた二つの垂直なねじからなる木製の装置で、手で書物をかがるために使う。「plough」はナイフを供えた木製の道具で、手で書物の端を裁断するために使う。Edith Diehl, *Bookbinding: its background and technique* (New York: Rinehart & Company, 1946), vol. 2, pp.386-387; Matt T. Roberts and Don Etherington, *Bookbinding and the conservation of books: a dictionary of descriptive terminology* (Washington, D. C.: Library of Congress, 1982), pp. 200 and 229-231; Bernard C. Middleton, *A history of English craft bookbinding technique*. 3rd edition (London: The Holland Press, 1988), pp.215-223.
- (16) “Inventory of William Robinson (deceased 30 Nov. 1675)”, HRO, Wills and inventories of Hereford Diocese, 47/1/11.
- (17) R・W・ブランスキル (片野博訳) 『イングランドの民家』(東京: 井上書院, 1985) 152-155頁。
- (18) M. Bromfield, *A brief discovery of the chief causes, signs, and effects of that most reigning disease, the scurvy...* (London: [s.n.], 1685). 4to. (Wing B4884F).
- (19) Plant, *The English book trade*, pp.96-97.
- (20) Plant, *The English book trade*, pp.253-255.
- (21) 14 Car.II. c.33, in *The statutes of the realm: printed by command of his Majesty King George the Third in pursuance of an address of the House of Commons of Great Britain* (London: Dawsons, 1963), vol.5, p.428-433; Plant, *The English book trade*, pp.80-82; David McKitterick, *A history of Cambridge University Press; volume I: printing and the book trade in Cambridge 1534-1698* (Cambridge: Cambridge University Press, 1992), pp.36-37; Pollard, “The English market”, p.21
- (22) Thomas Good, *Firmianus and Dubitantius, or certain dialogues concerning atheism, infidelity, popery, and other heresies and schisme’s...* (Oxford: Printed by L. Lichfield, for Tho. Hancox, 1674). 8vo. (Wing G1029). なお、この書物はロンドン書籍商組合の出版許可登録簿には記載されていない。See: Eyre & Rivington, ed., *A transcript of the registers of the Company of Stationers of London: [1640-1708 A.D.]* (Gloucester, Mass.: Peter Smith, 1967). 3 vols.
- (23) Robert Clavel, ed., *The general catalogue of books printed in England since the dreadful fire of London, 1666 to the end of Trinity term, 1674. ...* (London: Printed by Andrew Clark, for Robert Clavel, 1675), p.51.
- (24) Plant, *The English book trade*, pp.63-66.
- (25) Cyprian Blagden, *The Stationers’ Company: a history, 1403-1959* (London: George Allen & Unwin, 1960), pp.92-101.
- (26) 標題紙の奥書に「Printed by A for B」とある場合、Aが印刷工、Bが出版者を示すと考えられる。

- ジョン・カーター (横山千晶訳)『西洋書誌学入門』(東京:図書出版社, 1994) 219-220頁。
- (27) See: E. A. Clough, comp., *A short-title catalogue arranged geographically of books printed and distributed by printers, publishers and booksellers in the English provincial towns and in Scotland and Ireland up to and including the year 1700* (London: The Library Association, 1969).
- (28) 25 Hen. VIII. c.15. in *The statutes of the realm*, vol.3, p.456; Plant, *The English book trade*, pp.259-261.
- (29) Pollard, "The English market", pp.19-20.
- (30) *Minute book of the Haberdashers Company*, Hereford City Library, fLC 338-6 MSS, [4 Feb 1663].
- (31) *Minute book*, [3 No 14 Cahs II, 1662].
- (32) Alan Everitt, "The marketing of agricultural produce", in Joan Thirsk, ed., *The agrarian history of England and Wales; volume IV 1500-1640* (Cambridge: Cambridge University Press, 1967), p.533.
- (33) Daniel Defoe, *A tour thro' the whole island of Great Britain...; volume I* (London: Printed, and sold by G. Strahan, 1724), (1st letter), pp.122-123.
- (34) Everitt, "The marketing of agricultural produce", pp.534-537; J. A. Charters, "The marketing of agricultural produce", in Joan Thirsk, ed., *The agrarian history of England and Wales; volume V 1640-1750: II. Agrarian change* (Cambridge: Cambridge University Press, 1985), pp.434-439.
- (35) William Addison, *English fairs and markets* (London: B. T. Batsford, 1953), p.42.
- (36) *The English chapmans and travellers almanack for the year of Christ 1697...* (London: Printed by Tho. Jameson for the Company of Stationers, 1697).
- (37) Addison, *English fairs and markets*, pp.25-27.
- (38) Everitt, "The marketing of agricultural produce", pp.536-537.
- (39) フェーブル, マルタン『書物の出現』下, 91-107頁; 小倉欣一, 大澤武男『都市フランクフルトの歴史: カール大帝から1200年』(中公新書, 1203) (東京: 中央公論社, 1994) 51-72頁; 宮下志朗『本の都市リヨン』(東京: 晶文社, 1989) 19-46頁。
- (40) Blagden, *The Stationers' Company*, pp.105-107; Pollard, "The English market", p.13.
- (41) Everitt, "The marketing of agricultural produce", pp.537-542.
- (42) Pollard, "The English market", pp.12-13.
- (43) Plant, *The English book trade*, p.262.
- (44) Pollard, "The English market", p.14.
- (45) コルネリウス・ウォルフオード (中村勝訳)『市の社会史』(東京: そしえて, 1984) 128頁。

- (46) Margaret Spufford, *Small books and pleasant histories: popular fiction and its readership in seventeenth-century England*. Paperback edition (Cambridge: Cambridge University Press, 1985), p.118.
- (47) Richard Sibbes, *The bruised reede, and smoaking flax. Some sermons contracted out of the 12. of Matth. 20.* (STC 22479). 初版は1630年出版。翌年第2版と第3版, さらに翌1632年には第4版が出ている。バクスターが読んだのはこの中のどれかであろう。
- (48) N. H. Keeble, ed., *The autobiography of Richard Baxter; abridged by J. M. Lloyd Thomas* (London: Dent, 1974), p.7.
- (49) *NUC*, v.545, p.75.
- (50) Spufford, *The great reclothing*, p.32.
- (51) “John Floyd of Norton in Radonor Chappman (15 March 1675)”, HRO, Wills and inventories, 51/1/21.
- (52) Spufford, *Small books and pleasant histories*, pp.111-115, 118-120; id., *The great reclothing*, pp.14-20.
- (53) Plant, *The English book trade*, p.263.
- (54) I. G. Philip and Paul Morgan, “Libraries, books, and printing”, in Nicholas Tyacke, ed., *Seventeenth-century Oxford (The history of the University of Oxford, volume IV)* (Oxford: Clarendon Press, 1977), pp. 659-678.
- (55) J. C. T. Oates, “The libraries of Cambridge, 1570-1700”, in Francis Wormald and C. E. Wright, eds., *The English library before 1700: studies in its history* (London: University of London, The Athlone Press, 1958), pp.213-235.
- (56) E. S. de Beer, ed., *The Diary of John Evelyn* (London: Oxford University Press, 1959), pp. 767-8. この記事は1684年2月13日のことであるが, 同年7月15日には, テニソンの図書館を見にロンドンを訪ねたという短い記事が記述されており, この時点までに図書館は完成していたと考えられる。
The Diary, p.815.
- (57) 高宮利行, 原田範行『図説本と人の歴史事典』(東京: 柏書房, 1997) 311-312頁。
- (58) T. A. Birrell, “Reading as pastime: the place of light literature in some gentlemen’s libraries of the 17th century”, in Robin Myers and Michael Harris, eds., *Property of a gentleman: the formation, organisation and dispersal of the private library 1620-1920* (Winchester: St Paul’s Bibliographies, 1991), pp.116-127.
- (59) Tessa Watt, “Piety in the pedlar’s pack: continuity and change, 1578-1630”, and Michael Frearson, Nesta Evans and Peter Spufford, “The mobility and descent of dissenters in the Chiltern Hundreds”, in Margaret Spufford, ed., *The world of rural dissenters, 1520-1725* (Cambridge: Cambridge University Press, 1995), pp.235-331.

- (60) R. S. Schofield, "The measurement of literacy in pre-industrial England", in Jack Goody, ed., *Literacy in traditional societies* (Cambridge: Cambridge University Press, 1968), p.319; Lawrence Stone, "Literacy and education in England 1640-1900", in *Past and Present*, 42 (1969), p.98.
- (61) David, Cressy, *Literacy and the social order: reading and writing in Tudor and Stuart England* (Cambridge: Cambridge University Press, 1980), pp.72-76; Stone, "Literacy and education", pp.100-101.
- (62) Cressy, *Literacy and the social order*, pp.118-141.
- (63) Cressy, *Literacy and the social order*, pp.142-164.
- (64) Stone, "Literacy and education", pp.69-73.
- (65) Margaret Spufford, "First steps in literacy: the reading and writing experiences of the humblest seventeenth-century spiritual autobiographers", *Social History*, 4 (1979), pp.420-421.
- (66) Spufford, "First steps in literacy", pp.410-412.
- (67) Keeble, *The autobiography of Richard Baxter*, p.4
- (68) Spufford, "First steps in literacy", pp.412-415.
- (69) Spufford, "First steps in literacy", pp.422-435.
- (70) Plant, *The English book trade*, pp.238-242.
- (71) Plant, *The English book trade*, p.245.
- (72) Clavel, *The general catalogue*, pp.5, 47, 101-107; etc. なお、教科書の中に「0 (l .) 0 (s .) 0 (d .)」と表記されているものが数タイトルあるが、印刷ミスか。
- (73) Foot, *Studies in the history of bookbinding*, pp.15-67.
- (74) Peter Clark, "The ownership of books in England, 1560-1640: the example of some Kentish townfolk", in Lawrence Stone, ed., *Schooling and society: studies in the history of education* (Baltimore: The Johns Hopkins University Press, 1976), pp.97-102.
- (75) Jonathan Barry, "Popular culture in seventeenth-century Bristol", in Barry Reay, ed., *Popular Culture in Seventeenth Century England* (London: Croom Helm, 1985), p.67.
- (76) 拙稿「一七世紀後半ヘリフォード州の農村における消費活動：家屋と家財道具から」『一橋論叢』第122巻第4号（1999）129-131頁。
- (77) Lorna Weatherill, *Consumer behaviour and material culture in Britain 1660-1760*. 2nd edition (London: Routledge, 1996), pp.26-27, 184, 207.
- (78) Birrell, "Reading as pastime", p.120.
- (79) "John Venson of Tenbury in the county of Worcester, schoolmaster", HRO, Wills and inventories, 31/4/14.
- (80) "Edmond Penson schoolmaster of Burford in Salop", HRO, Wills and inventories, 65/1/22.

- (81) See: John Lawler, *Book auctions in England in the seventeenth century (1676-1700); with a chronological list of the book auctions of the period* (London: Eliot Stock, 1898).
- (82) Birrell, "Reading as pastime", p.129.
- (83) ロジェ・シャルチエ (福井憲彦訳) 『読書の文化史: テクスト・書物・読解』 (東京: 新曜社, 1992), 57-71頁; シャルチエ 『書物の秩序』 16-63頁。
- (84) ロジェ・シャルチエ (長谷川輝夫, 宮下志朗共訳) 『読書と読者: アンシャン・レジーム期フランスにおける』 (東京: みすず書房, 1994) 102-109, 236-238頁。
- (85) Keeble, *The autobiography of Richard Baxter*, pp.4-6.
- (86) Anne Whiteman, ed., *The Compton census of 1676: a critical edition* (Records of social and economic history. New series; x) (London: Published for British Academy by Oxford University Press, 1986), p.251, より算出。算出方法については拙稿「十七世紀中葉の西ミッドランドの農村: 年季奉公人の故郷の一例」『社会経済史学』第64巻 (1998), 515頁注8参照。
- (87) Lucy Toulmin Smith, ed., *The itinerary of John Leland in or about the years 1535-1543* (London: G. Bell and sons, 1907-10), vol.3, part vi, pp.47-48.
- (88) Toulmin Smith, *The Itinerary of John Leland*, vol.2, part v, pp.64-68. かつこ内は筆者による補足。特に断りのない場合, 以下同じ。
- (89) Christopher Morris, ed., *The illustrated journeys of Celia Fiennes 1685-c.1712* (Stroud, Gloucestershire: Alan Sutton, 1995), p.65.
- (90) Daniel Defoe, *A tour thro' the whole island of Great Britain...; volume II* (London: Printed, and sold by G. Strahan, 1725), 3rd letter, pp.74-75.
- (91) "Inventory of the books and goods of Roger Williams", f.91.
- (92) *Minute book*, [Jan 26, 1690/1].
- (93) *Minute book*, [Aug 26 1695].
- (94) "Will of Richard Whittington of Hereford, bookseller", HRO, Wills of Dean's Consistory Court of Hereford.
- (95) John Buchanan-Brown, "The Haberdashers' Company of Hereford v James Wilde", *Quadrad: A Periodical Bulletin of Reseach in Progress on the British Book Trade*, 1 (1995), p.12.
- (96) *Minute book*, [Aug 5, 1690], [Jan 16 1692/3].
- (97) "Will of Richard Whittington".
- (98) Buchanan-Brown, "The Haberdashers' Company", p.13.
- (99) この日付にも疑わしい点が残る。ワイルドが組合員として認められた旨の記載は1695年12月5日付の記事と1695年12月17日付の記事の間に現れているのである。しかも、彼の記事は頁の最下段余白に近いところにあり、後から書き込むことも可能である。*Minute book*, [5 Dec 1695] - [17 Dec 1695].

ブキャナン＝ブラウンは組合への不正な加盟を考えがたいとし、「1695年」としている。Buchanan-Brown, “The Haberdashers’ Company”, p.16, n.7. いずれにせよ、ウィリアムズの裁判時には小間物商組合員ではなかったことは確かである。

- (100) Buchanan-Brown, “The Haberdashers’ Company”, pp.13-14.
- (101) Buchanan-Brown, “The Haberdashers’ Company”, p.15; “Thomas Garnons’s accounts 1694 -1696”, in *Minute book*.
- (102) “Inventory of the books and goods of Roger Williams”, f.91.
- (103) トルコ絨毯をまねした毛織物でカバーした椅子のこと。Francis W. Steer, ed., *Farm and cottage inventories of Mid-Essex 1635-1749*. 2nd edition (London: Phillimore, 1969), p.13.
- (104) “Inventory of William Robinson”; and “Inventory of Thomas Hancox, 27 May, 1685”, HRO, Wills of D.C.C. of Hereford.
- (105) 注 (6) 参照。
- (106) A. W. Pollard & G. R. Redgrave. eds., *A short-title catalogue of books printed in England, Scotland, & Ireland and of English books printed abroad 1475-1640*. 2nd edition, revised & enlarged (London: The Bibliographical Society, 1986). 3 vols; Donald Wing, ed., *Short-title catalogue of books printed in England, Scotland, Ireland, Wales, and British America and of English books printed in other countries 1641-1700*. 2nd edition, revised and enlarged (New York: The Index Committee of the Modern Language Association of America, 1972). 3 vols; Library of Congress and American Library Association, eds., *The National Union Catalog, pre-1956 imprints: a cumulative author list representing Library of Congress printed cards and titles reported by other American libraries* (London: Mansell, 1968-1981). 754 vols; British Library, ed., *English short title catalogue 1473-1800 on CD-ROM* (London: British Library, 1998). その他のカタログの詳細は末尾文献一覧を参照せよ。
- (107) モーガンが論文内で便宜的につけた記載タイトルの整理番号。以下同じ。
- (108) “Inventory of William Robinson (deceased 30 Nov. 1675)”, HRO, Wills and inventories of Hereford Diocese, 47/1/11; “Inventory of Thomas Hancox”, HRO, Wills of Dean’s Consistory Court of Hereford, [27 May 1685].
- (109) 高宮, 原田『図説』219-220頁。
- (110) 現物資料はすべて一橋大学社会科学古典史料センター所蔵資料である。テキストの中身だけを問題にするときにはゴールドスミス・クレス文庫マイクロフィルムコレクション所蔵資料をも利用した。詳細は末尾文献一覧参照のこと。
- (111) 小林章夫『チャップ・ブック：近代イギリスの大衆文化』(東京：駸々堂, 1988) 175-190頁。
- (112) “The History of Guy Earl of Warwick”: Clavel, *The general catalogue*, p.35.
- (113) Clavel, *The general catalogue*, p.34. なお、『目録』に記載されているJ・オヴァートン出版の版

は『ウイング』、『NUC』、『ESTC』いずれのカタログにも記載されていない。

- (114) C. John Sommerville, "On the distribution of religious and occult literature in seventeenth-century England", *The Library*, 5th ser., 39 (1974), pp.221-225.
- (115) ESTC(r036538). 『ESTC』では、差し替えが1694年に行われたと推測されることから、出版年を「1694」としている。
- (116) ロンドン版は Wing B3687, Wing B3688A の二つがある。
- (117) Wing, *STC*, v.1, p.190.
- (118) Charles C. Mish, "Best sellers in seventeenth-century fiction", *Papers of the Bibliographical Society of America*, 47 (1953), pp.358-359.
- (119) Foot, *Studies in the history of bookbinding*, p.49.
- (120) H. S. Bennett, *English books & readers 1603 to 1640: being a study in the history of the book trade in the reigns of James I and Charles I* (Cambridge: Cambridge University Press, 1970), pp.131-132.
- (121) Edward Chamberlayne, *Angliae notitia; or the present sate of England compleat. Together with divers reflections upon the ancient state thereof*. 17th edition (London: Printed by T. Hodgkin, for R. Scot, and T. Sawbridge, R. Chiswell; and are to be sold by them and by Mat. Gilliflower, James Partridge, and S. Smith, 1692). 一橋大学社会科学古典資料センター, 貴C-287 (13)。
- (122) Peter Heylyn, *Cosmographie, in four bookes: containing the chorographie and historie of the whole world, and all the principal kingdoms, provinces, seas, and isles thereof*. 3rd edition (London: Printed for Anne Seile, 1666). 古典資料センター, Franklin 5423. ちなみに日本の記述もあり、織田信長や豊臣秀吉が登場するが、江戸時代の記述は全く不十分である。
- (123) Mish, "Best sellers", p.365.
- (124) John Worlidge, *Systema agriculturae; the mystery of husbandry discovered...* 4th edition (London: Printed for Tho. Dring, 1687). 古典資料センター, Franklin 4980.
- (125) Sir Richard Hutton, *The clerks guide: or, An exact collection of choice English presidents, according to the best forms now used...* (London: Printed for Humphrey Tuckey, 1652).
- (126) Richard Blome, *The present state of his Majesties isles and territories in America...* (London: Printed by H. Clark, for D. Newman, 1687).
- (127) Bernard Capp, *Astrology and the popular press: English almanacs 1500-1800* (London: Faber and Faber, 1979), pp.293-386.
- (128) Rosemary O'Day, *Education and society 1500-1800: the social foundation of education in early modern Britain* (London: Longman, 1982), pp.70-72.
- (129) O'Day, *Education and society*, 43-47; Stone, "Literacy and education", pp.76-81; Spufford,

“First steps in literacy”, pp.407-408.

(130) Bennett, *English books & readers 1603 to 1640*, 172-173.

(131) Pollard and Redgrave, *STC*, vol.2, 325-327; Wing, *STC*, vol.3, pp.348-349.

文献一覽

1. カタログ・辞典

A. F. Allison and V. F. Goldsmith, ed., *Titles of English books (and of foreign books printed in England): an alphabetical finding-list by title of books published under the author's name, pseudonym or initials* (Folkestone, Kent: Wm. Dawson & Sons, 1976-7). 2 vols.

British Library, ed., *English short title catalogue 1473-1800 on CD-ROM* (London: British Library, 1998).

E, A. Clough, comp., *A short-title catalogue arranged geographically of books printed and distributed by printers, publishers and booksellers in the English provincial towns and in Scotland and Ireland up to and including the year 1700* (London: The Library Association, 1969).

Library of Congress and American Library Association, eds., *The National Union Catalog, pre-1956 imprints: a cumulative author list representing Library of Congress printed cards and titles reported by other American libraries* (London: Mansell, 1968-1981). 754 vols.

James Kennedy, W. A. Smith and A. F. Johnson, ed., *Dictionary of anonymous and pseudonymous English literature (Samuel Halkett and John Laing)*. New and enlarged edition (Edinburgh and London: Oliver and Boyd, 1926-62). 9 vols.

A. N. L. Munby and Lenore Coral, comp. and ed., *British book sale catalogues, 1676-1800: a union list* (London: Mansell, 1977).

A. W. Pollard & G. R. Redgrave, eds., *A short-title catalogue of books printed in England, Scotland, & Ireland and of English books printed abroad 1475-1640*. 2nd edition, revised & enlarged (London: The Bibliographical Society, 1986). 3 vols.

Leslie Stephen and Sidney Lee, ed., *Dictionary of national biography* (London: Smith, Elder, & co., 1908-9). 22 vols.

Robert Watt, ed., *Bibliotheca Britannica or a general index to British and foreign literature. In two parts: authors and subjects* (New York: Burt Franklin, [1965]). 4 vols.

Donald Wing, ed., *Short-title catalogue of books printed in England, Scotland, Ireland, Wales, and British America and of English books printed in other countries 1641-1700*. 2nd edition,

revised and enlarged (New York: The Index Committee of the Modern Language Association of America, 1972). 3 vols.

2. マニユスクリプト

Hereford Record Office

Wills and inventories of Hereford Diocese.

Wills of Dean's Consistory Court of Hereford.

"Inventory of the books and goods of Roger Williams", in Hereford City MSS, vol.5: miscellaneous papers, 1651-1847, BG11/17/5, fol.88-91.

Hereford City Library,

Minute book of the Haberdashers Company, fLC 338-6 MSS.

3. 印刷史料

Edward Arber, ed., *A transcript of the registers of the Company of Stationers of London: 1554-1640 A.D.* (Gloucester, Mass.: Peter Smith, 1967). 5 vols.

E. S. de Beer, ed., *The Diary of John Evelyn* (London: Oxford University Press, 1959).

Eyre & Rivington, ed., *A transcript of the registers of the Company of Stationers of London: [1640-1708 A.D.]* (Gloucester, Mass.: Peter Smith, 1967). 3 vols.

N. H. Keeble, ed., *The autobiography of Richard Baxter; abridged by J. M. Lloyd Thomas* (London: Dent, 1974).

E. S. Leedham-Green, *Books in Cambridge inventories: books-lists from Vice-Chancellor's Court probate inventories in the Tudor and Stuart periods* (Cambridge: Cambridge University Press, 1986), 2 vols.

F. C. Morgan, "A Hereford bookseller's catalogue of 1695", in *Transactions of the Woolhope Naturalists' Field Club*, vol.31 (1942-44), pp.22-36.

Christopher Morris, ed., *The illustrated journeys of Celia Fiennes 1685-c.1712* (Stroud, Gloucestershire: Alan Sutton, 1995).

Francis W. Steer, ed., *Farm and cottage inventories of Mid-Essex 1635-1749*. 2nd edition (London: Phillimore, 1969).

Lucy Toulmin Smith, ed., *The itinerary of John Leland in or about the years 1535-1543* (London: G. Bell and sons, 1907-10), 5 vols.

Anne Whiteman, ed., *The Compton census of 1676: a critical edition* (Records of social and economic history. New series; x) (London: Published for British Academy by Oxford University Press, 1986).

4. 同時代文献

一橋大学社会科学古典資料センター

Edward Chamberlayne, *Angliae notitia; or the present sate of England compleat. Together with divers reflections upon the ancient state thereof.* 17th edition (London: Printed by T. Hodgkin, for R. Scot, and T. Sawbridge, R. Chiswell; and are to be sold by them and by Mat. Gilliflower, James Partridge, and S. Smith, 1692). 貴C-287(13).

Robert Clavel, ed., *The general catalogue of books printed in England since the dreadful fire of London, 1666 to the end of Trinity term, 1674. ...* (London: Printed by Andrew Clark, for Robert Clavel, 1675). 貴A-A84.

Peter Heylyn, *Cosmographie, in four bookes: containing the chorographie and historie of the whole world, and all the principal kingdoms, provinces, seas, and isles thereof.* 3rd edition (London: Printed for Anne Seile, 1666). Franklin 5423.

John Worlidge, *Systema agriculturae; the mystery of husbandry discovered...* 4th edition (London: Printed for Tho. Dring, 1687). Franklin 4980.

ゴールドスミス・クレス文庫マイクロフィルムコレクション

Richard Blome, *The present state of his Majesties isles and territories in America...* (London: Printed by H. Clark, for D. Newman, 1687).

Daniel Defoe, *A tour thro' the whole island of Great Britain...; volume I* (London: Printed, and sold by G. Strahan, 1724).

Daniel Defoe, *A tour thro' the whole island of Great Britain...; volume II* (London: Printed, and sold by G. Strahan, 1725).

The English chapmans and travellers almanack for the year of Christ 1697... (London: Printed by Tho. Jameson for the Company of Stationers, 1697).

Sir Richard Hutton, *The clerks guide: or, An exact collection of choice English presidents, according to the best forms now used...* (London: Printed for Humphrey Tuckey, 1652).

5. 二次資料

William Addison, *English fairs and markets* (London: B. T. Batsford, 1953).

H. S. Bennett, *English books & readers 1603 to 1640: being a study in the history of the book trade in the reigns of James I and Charles I* (Cambridge: Cambridge University Press, 1970).

Cyprian Blagden, *The Stationers' Company: a history, 1403-1959* (London: George Allen & Unwin, 1960).

John Buchanan-Brown, "The Haberdashers' Company of Hereford v James Wilde", *Quadrad: A Periodical Bulletin of Reseach in Progress on the British Book Trade*, 1 (1995), pp.12-16.

- Bernard Capp, *Astrology and the popular press: English almanacs 1500-1800* (London: Faber and Faber, 1979).
- Kenneth E. Carpenter, ed., *Books and society in history: papers of the Association of College and Research Libraries Rare Books and Manuscripts Preconference, 24-28 June, 1980, Boston, Massachusetts* (New York: R. R. Bowker Company, 1983).
- David, Cressy, *Literacy and the social order: reading and writing in Tudor and Stuart England* (Cambridge: Cambridge University Press, 1980).
- Edith Diehl, *Bookbinding: its background and technique* (New York: Rinehart & Company, 1946). 2 vols.
- Mirjam M. Foot, *Studies in the history of bookbinding* (Aldershot, Hants: Scolar Press, 1993).
- Jack Goody, ed., *Literacy in traditional societies* (Cambridge: Cambridge University Press, 1968).
- John Lawler, *Book auctions in England in the seventeenth century (1676-1700); with a chronological list of the book auctions of the period* (London: Eliot Stock, 1898).
- David McKitterick, *A history of Cambridge University Press; volume I: printing and the book trade in Cambridge 1534-1698* (Cambridge: Cambridge University Press, 1992).
- Bernard C. Middleton, *A history of English craft bookbinding technique*. 3rd edition (London: The Holland Press, 1988).
- Charles C. Mish, "Best sellers in seventeenth-century fiction", *Papers of the Bibliographical Society of America*, 47 (1953), pp.356-373.
- Penelope E. Morgan, "An unrecorded seventeenth-century Hereford bookbinder", *The Library*, 6th ser., vol.10 (1988), pp.145-150.
- Robin Myers and Michael Harris, eds., *Property of a gentleman: the formation, organisation and dispersal of the private library 1620-1920* (Winchester: St Paul's Bibliographies, 1991).
- Rosemary O'Day, *Education and society 1500-1800: the social foundation of education in early modern Britain* (London: Longman, 1982).
- Marjorie Plant, *The English book trade: an economic history of the making and sale of books*. 3rd edition (London: George Allen & Urwin, 1974).
- Graham Pollard, "The English market for printed books: The Sandars Lectures, 1959", in *Publishing History*, 4 (1978), p.7-48.
- Barry Reay, ed., *Popular Culture in Seventeenth Century England* (London: Croom Helm, 1985).
- Matt T. Roberts and Don Etherington, *Bookbinding and the conservation of books: a dictionary of descriptive terminology* (Washington, D. C.: Library of Congress, 1982).
- C. John Sommerville, "On the distribution of religious and occult literature in seventeenth-

- century England”, *The Library*, 5th ser., 39 (1974), pp.221-225.
- Margaret Spufford, “First steps in literacy: the reading and writing experiences of the humblest seventeenth-century spiritual autobiographers”, *Social History*, 4 (1979), pp.407-435.
- Margaret Spufford, *The great re-clothing of rural England: petty chapmen and their wares in the seventeenth century* (London: The Hambledon Press, 1984).
- Margaret Spufford, *Small books and pleasant histories: popular fiction and its readership in seventeenth-century England*. Paperback edition (Cambridge: Cambridge University Press, 1985).
- Margaret Spufford, ed., *The world of rural dissenters, 1520-1725* (Cambridge: Cambridge University Press, 1995).
- Lawrence Stone, “Literacy and education in England 1640-1900”, in *Past and Present*, 42 (1969), pp.69-139.
- Lawrence Stone, ed., *Schooling and society: studies in the history of education* (Baltimore: The Johns Hopkins University Press, 1976).
- Joan Thirsk, ed., *The agrarian history of England and Wales; volume IV 1500-1640* (Cambridge: Cambridge University Press, 1967).
- Joan Thirsk, ed., *The agrarian history of England and Wales; volume V 1640-1750: II. Agrarian change* (Cambridge: Cambridge University Press, 1985).
- Nicholas Tyacke, ed., *Seventeenth-century Oxford (The history of the University of Oxford, volume IV)* (Oxford: Clarendon Press, 1977).
- Lorna Weatherill, *Consumer behaviour and material culture in Britain 1660-1760*. 2nd edition (London: Routledge, 1996).
- Francis Wormald and C. E. Wright, eds., *The English library before 1700: studies in its history* (London: University of London, The Athlone Press, 1958).
- R・W・ブランスキル (片野博訳) 『イングランドの民家』 (東京: 井上書院, 1985).
- ジョン・カーター (横山千晶訳) 『西洋書誌学入門』 (東京: 図書出版社, 1994).
- ロジェ・シャルチエ (福井憲彦訳) 『読書の文化史: テキスト・書物・読解』 (東京: 新曜社, 1992).
- ロジェ・シャルチエ (長谷川輝夫訳) 『書物の秩序』 (東京: 文化科学高等研究院, 1993).
- ロジェ・シャルチエ (長谷川輝夫, 宮下志朗共訳) 『読書と読者: アンシャン・レジーム期フランスにおける』 (東京: みすず書房, 1994).
- リュシアン・フェーブル, アンリ=ジャン・マルタン (関根素子他訳) 『書物の出現』 (東京: 筑摩書房, 1985) 上下巻.
- コルネリウス・ウォルフオード (中村勝訳) 『市の社会史』 (東京: そしえて, 1984).
- 石井 健 「十七世紀中葉の西ミッドランドの農村: 年季奉公人の故郷の一例」 『社会経済史学』 第64巻第4

号 (1998) 31-60頁.

石井 健「一七世紀後半ヘリフォード州の農村における消費活動：家屋と家財道具から」『一橋論叢』第122
巻第4号 (1999) 120-135頁.

小林章夫『チャップ・ブック：近代イギリスの大衆文化』（東京：駈々堂，1988）.

宮下志朗『本の都市リヨン』（東京：晶文社，1989）.

小倉欣一，大澤武男『都市フランクフルトの歴史：カール大帝から1200年』（中公新書，1203）（東京：中央
公論社，1994）.

白田秀彰「コピーライトの史的展開 (1)-(4)」『一橋研究』第19巻第4号 (1995) 47-68頁，第20巻第1号
(1995) 1-30頁，第3号 (1995) 25-52頁，第4号 (1996) 109-141頁.

高宮利行，原田範行『図説本と人の歴史事典』（東京：柏書房，1997）.

(いしい たけし 一橋大学社会科学古典資料センター助手)

一橋大学社会科学古典資料センター *Study Series. No. 44*

発行所 東京都国立市中 2 - 1

一橋大学社会科学古典資料センター

発行日 2000年 3月31日

印刷所 岐阜市三輪プリントピア 3

株式会社コームラ

